法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-04-05

法政大學講義録

若槻，禮次郎 / 山脇，貞夫 / 水野，錬太郎 / 吾孫子，勝 / 松浦，鎮次郎

(出版者 / Publisher)
法政大學
(巻 / Volume)
15
(号 / Number)
特別法
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
51
(発行年 / Year)
1904-06-03

（明治三十六年十月十一日第三種郵便物認可
毎月十四日三日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行）
明治三十七年六月三日發行

特別法ノ十五

法政大學講義錄

第七拾五號

法政大學發行

特別法第十五號目次

市制町村制（自五九至七四）　法學士　松浦鎮次郎

現行租稅法論（自三四九至三六六）（完）　法學士　若槻禮次郎

決紙及ビ目次　四頁

競賣法（自一一三至一三〇）　法學士　吾孫子勝

著作權法（自七七至九六）　法學博士　水野錬太郎

公證人規則（自二九至四四）　法學士　山脇貞夫

雜報　○清國留學生法政速成科ノ新設○「同商品」ノ意義○商標權ト名譽權

090
1903
5-15

心其職務ニ全力ヲ注クヘキモノナルカ故ニ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他營業ヲ行フハ府縣知事ノ認許ヲ得ルヲ要スルモノトス

行政廳タル市參事會ノ外其補助機關タルモノヲ擧クレハ市ニ收入役一名ヲ置キ市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選任ス其選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス收入役ハ有給職ニシテ之ニ任セラルルニハ市公民タルヲ要セサレトモ其任ヲ受ケタルトキハ公民タルノ權ヲ得ルモノナリ其任期ハ六年トス收入役ハ市參事會員ヲ兼ヌルコトヲ得ス其他收入役選擧ノ方法再選擧ニシテ猶認可ヲ得サル場合ニ處スル方法或種類ノ人カ收入役トナルヲ得サル關係及或種類ノ人ト收入役ト相兼ヌルヲ得サル關係竝ニ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルヲ得ルコト及其場合ニ退職料ヲ受クルノ權ヲ失フコトハ總テ助役ノ場合ニ於ケルト同シ收入役ハ身元保證金ヲ出スノ義務アリ市ニハ又書記其他必要ノ附屬員及使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用スルモノトス其他市ハ處務ノ便宜ノ爲メ市參事會

ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トスルヲ本則トスレトモ東京市、京都市、大阪市及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ區長ヲ有給吏員トスルコトヲ得區長及其代理者タルニハ其區若ハ隣區ノ公民中選擧權ヲ有スル者タルコトヲ必要トシ區會ヲ設クル區ニ於テハ區會ニ於テ區會ノ設ナキ區ニ於テハ市會ニ於テ之ヲ選擧シ東京市、京都市、大阪市及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ市參事會之ヲ選任スルモノトス所謂隣區トハ問題トナレル區ト境域ヲ接セル一ノ區ヲ意味スルモノニシテ境域ヲ接セサル區ハ假令近傍ニ在ルモ之ヲ隣區トイフコトヲ得サルハ言ヲ待タス東京市、京都市、大阪市及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ區長ノ代理者ヲ置カス區ニ有給ノ書記其他必要ノ附屬員及使丁ヲ置クコトヲ得又市會ノ議決ニ依リ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得區附屬員及使丁ノ人員ヲ定メ及之ヲ任用スルノ方法ハ市ノ附屬員及使丁ノ場合ト同シク區收入役ハ區附屬員中ニ就キ市參事會之ヲ命スルモノトス市ハ又市會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トシ市參事會員ノ中ヨリ之ヲ選擧スルカ或ハ市會議員中ヨリ之ヲ選擧スルカ或ハ市參事會員及市會議員中ヨリ之ヲ選フカ或ハ市參事會員市會議員及市公民中選擧權ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選フカノ四方法ノ一ニ依ラサルヘカラス委員中市會議員ヨリ出ツル者ハ市會ニ於テ、市公民中ヨリ出ツル者ハ市參事會ニ於テ、其他ノ者ハ市長之ヲ選任ス而シテ何レノ場合ニ於テモ市參事會員一名ヲ以テ委員長トス常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テスレハ右ノ四方法ノ孰レトモ異ナル組合セヲナスコトヲ得但市參事會員外ノ者ヲ委員長トナスカ如キ規定ハ之ヲ設クルヲ得サルハ言ヲ俟タス市ハ又教育事務ノ爲メ市會ノ議決ニ依ラス當然學務委員ヲ置カサルヘカラス學務委員ノ組織選任ノ方法ハ他ノ一般ノ委員ニ於ケルト同一ナレトモ委員中ニ必ス市立小學校男教員ヲ加フルヲ要シ教員ヨリ出ツル委員ハ市長之ヲ任免スルモノトス委員ノ任期及員數ニ付テハ一般ニ定マレルモノナキカ故ニ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得レトモ獨リ學務委員ニ付テハ其員數ハ十人以下トシ東京市ニ在テハ十五人マテニ增スコトヲ得又公民中ヨリ選擧セラレタル委員ノ任期ハ四箇年トスルノ制限アリ委員ハ常ニ純然タル合議體ヲナスモノニ非

ス處務ノ便宜ニ從ヒ或ハ單獨ニ行動スルコトアルヘク或ハ委員會ヲ開キテ協同事ニ從フコトアルヘク必スシモ一定セルコトナシ以上ノ補助機關ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除ク外隨時解職スルコトヲ得ルモノトス

町村ニ於テハ行政廳タル町村長一名ノ外助役、收入役各一名及町村會ニ於テ定ムル員數ノ書記其他必要ノ附屬員及使丁ヲ置クモノトス但シ町村條例ヲ以テスレハ助役ノ定員ヲ增加スルコトヲ得又收入寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得其他町村會ノ議決ニ依リ町村長ニ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ行ハシムルコトヲ得區域廣濶人口稠密ナル町村ニ於テハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得町村ハ又町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得又教育事務ノ爲メ學務委員ヲ置カサルヘカラス町村長及助役ハ名譽職トシ町村會ニ於テ其町村公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スル者ヨリ選擧スルヲ本則トスレトモ町村條例ノ規定ニ依リ助役一名ヲ有給吏員トナスコトヲ得此場合ニ於テハ其有給ノ町村長又ハ助役ニ任セラルル者ハ必スシモ其町村公民タルコトヲ要セス而シテ町村長又ハ助役ニ任セラレタル者ハ之ニ由リテ公民タルノ權ヲ得ルモノトス町村長及助役ハ所屬府縣郡ノ官吏、有給ノ町村吏員、檢事及警察官吏、神官、僧侶其他諸宗教師及小學校教員ヲ兼スルコトヲ得ス茲ニ所謂相兼スルコトヲ得ストノ意味ニ關シテハ前已ニ市參事會員ニ付テ述ヘタルト同シ又父子、兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其緣故アル者助役ノ選擧ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ町村長ニ任セラレタル場合ニハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退クヘキモノトス町村長及助役ノ選擧ハ一般ノ町村吏員選擧ノ方法ニ依ルモノナレトモ投票同數ナルトキハ抽籤ノ方法ニ依ラス郡參事會ニ於テ之ヲ決ス町村長及助役ノ選擧ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス府縣知事ニ於テ不認可ノ處分ヲナサントスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要シ其同意ヲ得サル場合ニハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲナスコトヲ得府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可

ヲ請フコトヲ得町村長及助役ノ選擧其認可ヲ得サルトキハ再選擧ヲナスヘク再選擧シテ猶認可ヲ得サルトキハ追テ選擧ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルマテノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシムヘキモノトス町村長及助役ノ任期ハ四年トス而シテ若シ名譽職ナラハ正當ノ理由アル場合ハ勿論正當ノ理由ナクトモ公民權停止等ノ制裁ヲ受クルノ危險ヲ冒セハ任期中何時ニテモ其職ヲ去ルヲ得レトモ有給職タル者ハ公民ノ義務トシテ强制的ニ就職セシメラレタルニ非ス自己ノ自由意思ニ依リ就職セルモノニシテ而シテ一定ノ任期ヲ有スルカ故ニ法ニ何等ノ規定ナキ場合ニ於テハ之ヲ選任シタル町村會ノ承認ヲ得ルニ非レハ任期中其職ヲ退クヲ得サルモノナリ然レトモ必ス此原則ニ依ルヘシトスルコトハ時トシテ不便ヲ感スルコトヲ免カレサルヲ以テ法ハ特ニ規定ヲ設ケテ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲナシ得ルコトヲ定メ而シテ此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權利ハ之ヲ失フコトトナセリ町村長及助役ニシテ名譽職タル場合ハ公民ノ義務トシテ本業ノ傍公務ニ從事スルモノナルカ故ニ自由ニ他ノ事業ヲナスヲ得レトモ其有給職タル場合ニハ一定ノ給料ヲ受ケ一意專心其職務ニ從事スヘキモノナルニ依リ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他營業ヲナスニハ郡長ノ認許ヲ得ルヲ要ス收入役ハ有給職トシ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス之ニ任セラルル者ハ其町村公民タルヲ要セサレトモ之ニ任セラレタルトキハ公民タルノ權ヲ得ルモノトス收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ不認可ノ處分ヲナサントスルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要シ其同意ヲ得サル場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲナスコトヲ得收入役ノ任期及退職ノ關係ハ町村長及助役ノ場合ト同シ書記其他ノ附屬員及使丁ハ有給職トシ其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム書記其他ノ附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス區長及其代理者ハ名譽職トシ町村會ニ於テ其町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス區會ヲ設ケタル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選擧ス委員ハ名職トシ町村會ニ於テ町村會議員中ヨリ選擧スルカ又ハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ選擧スルモノトス而シテ

町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ノ規定ニ依リ町村會議員ヨリ出ツル者ト町村公民ヨリ出ツル者トヲ混合スルカ如キ別段ノ組合セヲナスコトヲ得但シ町村長助役以外ノ者ヲ以テ委員長トナスカ如キコトハ固ヨリ之ヲナスヲ得サルモノトス又學務委員中ニハ何レノ場合ニ於テモ町村立小學校男教員ヲ加フルヲ要シ教員ヨリ出ツル委員ハ町村長之ヲ任免ス委員ノ任期及員數ニ付テハ一般ニ定マレルモノナキカ故ニ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得レトモ獨リ學務委員ニ付テハ員數ハ十人以下トシ又公民ヨリ出ツル委員ノ任期ハ四年トスルノ制限アリ委員ハ常ニ純然タル合議體ヲナスモノニ非ス處務ノ便宜ニ從ヒ或ハ單獨ニ行動スルコトアルヘク或ハ委員會ヲ開キテ協同事ニ從フコトアルヘク必スシモ一定セルコトナシ以上ノ補助機關ハ別段ノ規定又ハ規約アル場合ノ外ハ隨時解職スルヲ得ヘキモノトス

以上擧クル所ノ市參事會員、町村長其他市町村ノ補助機關ハ使丁ヲ除ク外皆之ヲ吏員ト稱ス吏員ト官吏トノ區別ハ其執ル所ノ事務ノ實質ニ依ルニ非スシテ

其任命ノ關係ノ異ナルニ在リ官吏ハ元首ノ大權作用トシテ任命セラルルモノナレトモ吏員ハ自治團體自身ニ於テ其自治ヲ行フカ爲メニ必要ナル機關ノ組織即チ自治作用ノ一トシテ之ヲ任命スルモノナリ彼ノ市町村長其他二三ノ吏員ノ選擧ノ如キ或ハ元首ノ裁可ヲ要シ或ハ監督官廳ノ認可ヲ要スルモノアレトモ是レ自治體ニ對スル國家監督權ノ作用ニシテ元首ノ大權ノ活動ニ非ス故ニ裁可又ハ認可ヲ要スルノ事實ハ毫モ其任命カ自治權ノ行爲タルコトヲ妨クルモノニ非サルナリ又注意スヘキハ市町村ニ於テハ前ニ掲ケタル吏員及使丁ノ外必要アル場合ニハ民事上ノ契約ニ依リ雇員囑託員等ヲ置クヲ得ルコト是ナリ實際ニ於テハ特別ノ學識技能ヲ備ヘ社會上ノ地位高キ人ニシテ却テ此形式ニ依リ市町村ノ事務ヲ管掌セルコト少カラス例ヘハ市町村ニ於テ技師若ハ病院長ヲ囑託スル場合ノ如シ此等ノ雇員カ吏員ト法律上ノ性質ヲ異ニスル所ハ吏員ノ如ク市町村ニ對シテ公法上ノ服從義務ヲ有スルコトナキノ點ニ在ルナリ

市町村ノ行政廳タル市參事會、町村長ハ市町村ノ最高行政機關ニシテ一切ノ行

政事務ヲ統轄シ市町村吏員及使丁ヲ監督シ市參事會ニ於テハ市長ヲ除ク外總テノ者ニ對シ町村長ニ在テハ總テノ吏員及使丁ニ對シ譴責及十圓以下ノ過怠金ノ範圍ニ於テ懲戒處分ヲ行ヒ市町村會ノ議事ヲ準備シ及市町村ノ行政廳トシテ市町村會ニ依リ決定セラレタル市町村ノ意思ヲ外部ニ執行スル職權ヲ有スルモノナリ若シ市町村會ノ議決ニシテ法規ニ違フカ權限ヲ超ユルカ又ハ公衆ノ利益ヲ害スルモノアリト認メラルルトキハ市會ニ在テハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ市會カ猶其議決ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘク市會ノ議決公衆ノ利益ヲ害ストノ理由ヲ以テ之カ再議ヲ命シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル市參事會又ハ市會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得又市會ノ議決法規ニ違ヒ若ハ權限ヲ超エタリトノ理由ヲ以テ之カ再議ヲ命シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル市參事會又ハ市會ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得町村會ニ在テハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ町村會カ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘク其裁決ニ不服ナル町村長又ハ町村會ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得而シテ町村會ノ議決公衆ノ利益ヲ害ストノ理由ヲ以テ之カ再議ヲ命シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル町村長又ハ町村會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得又町村會ノ議決法規ニ違ヒ若ハ權限ヲ超エタリトノ理由ヲ以テ之カ再議ヲ命シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル市參事會又ハ市會ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得茲ニ所謂再議ヲ命スルノコトハ市制第六十四條町村制第六十八條ニ於テ之ヲ規定セルモノニシテ其規定ニ付テハ稍疑問ヲ容ルルノ餘地アルカ如シ第一ノ疑ハ同條ニ於テハ或ハ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ云云トイヒ或ハ其權限ヲ超エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者云云トイヒ議決ノ執行ヲ停止スルコトニ重キヲ置ケルヲ以テ見レハ同條ニ依リ再議ヲ命シ得ヘキ議決ハ元來執行サレ得ヘキモノニ限リ例ヘハ市參事會町村長ニ對スル不信任決議ノ如キ所謂權限ヲ超エタル議決ナルモ然モ始ヨリ執行ノ之ニ伴ヒ得サルモノハ同條ニ依リ再議ヲ命ス

ヘキモノノ中ニ包含セサルニ非スヤトイフモノ是ナリ此點ニ付テハ行政裁判所ハ議決ノ執行トイフコトニ重キヲ置キ不信任決議ノ如キ執行ノ伴ハサルモノハ再議ヲ命スヘキモノニ非ストノ見解ヲ取レルカ如シ之ニ反シテ内務當局者ノ如キハ右ノ條文ニ所謂議決ノ執行ヲ停止シ云云トハ唯停止ノ必要アルモノハ之ヲ停止スヘシトノ意味ニ過キストシ不信任決議ノ如キモ同條ニ依リ再議ヲ命スヘキモノナリトナセルニ似タリ吾人ハ法ノ精神ハ寧ロ内務當局者ノ解釋ノ如クナルヲ信セント欲スルナリ第二ノ疑問ハ執行ノ停止トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ議決ノ執行カ未タ著手セラレサル前ニ於テ其著手ヲ止ムルコトノミヲ意味スルヤ或ハ執行カ已ニ著手セラレタル後ニ於テ其之ヲ繼續スルコトヲ止ムル場合ヲモ包含スルヤ換言スレハ執行サレ得ヘキ決議ニ付テ再議ヲ命シ得ルハ其決議ノ執行カ未タ始マラサル前ニ限ルヤ或ハ執行カ已ニ始マリシ後ニテモ可ナルヤトイフモノ是ナリ吾人ハ法ノ精神ハ決シテ執行ノ著手ノ前後ヲ問ハサルモノナリト信ス第三ノ疑問ハ監督官廳カ市參事會町村長ヲシテ再議ヲ命セシメタル場合ニ於テ府縣參事會若ハ郡參事會カ監督官廳ノ意見ト反對ノ裁決ヲナシタルトキハ監督官廳ハ强テ市參事會町村長ヲシテ之ニ對シ訴願若ハ行政訴訟ヲ起サシムルコトヲ得ルヤトイフモノ是ナリ此點ニ付テハ監督官廳ニシテ如斯キ職權ヲ有セストセハ初メニ再議ヲ命セシメタル趣旨ハ之ヲ貫徹スルヲ得サルコト多カルヘク隨テ立法論トシテハ監督官廳ニ此職權ヲ與フルヲ可トスルナルヘシト雖モ條文ニ於テ訴願若ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ許セルハ唯市參事會町村長若ハ市町村會自身ニ於テ裁決ニ不服ナル場合ニ限レルカ故ニ監督官廳ヨリ命令的ニ之ヲ起サシムルカ如キコトハナシ得サルモノナリトイフヘキカ如シ

尙ホ市參事會ハ町村長ノ如キ獨任制ノ機關ニ非ススシテ合議體ヲ成スモノナルカ故ニ其意思ヲ生シ得ルニハ法ノ特別ノ規定ニ依ラサルヘカラス市長ハ市參事會ヲ召集シ之カ議長トナルヘク市長故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ市長ハ又市參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲナシ及之ニ署名スルモノトス市參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員定員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議決ヲナスコトヲ得ス其議決ハ可

否ノ多數ニ依リ之ヲ定メ可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル議決ノ事件ハ之ヲ議事錄ニ登記スルヲ要ス會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ市參事會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス之カ爲メ市參事會正當ノ會議ヲ開クコトヲ得サルニ至ルトキハ市會之ニ代テ議決スルモノトス市參事會ノ議決法規ニ違ヒ權限ヲ超エ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘク其公衆ノ利益ヲ害ストノ理由ヲ以テ再議ヲ命シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル市參事會若ハ市長ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得法規ニ違ヒ權限ヲ超エタリトノ理由ヲ以テ再議ヲ命シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル市參事會若ハ市長ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得此規定ニ付テ疑問トスヘキ點ハ前ニ市參事會町村長ト市町村會トノ關係ニ付テ述ヘタルト同シ又急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會員ヲ召集スルノ暇ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告スヘキモノトス市參事會ハ元來市行政ヲ統轄スルモノ

ナレトモ合議體ナルカ故ニ動モスレハ周到緻密ナル注意ヲナス能ハサルノ憾ナキニ非ス故ニ之ヲ補フカ爲メ市長ニ於テ市政一切ノ事務ヲ指揮監督シ處務ノ澁滯ナキコトヲ務ムヘキモノトス市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス其代理ノ順序ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘク若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理スルモノトス市ノ助役及名譽職參事會員ハ市參事會ヲ組織スル一員タル外補助機關タル資格ニ於テ市參事會ヲ佐ケ特別ノ行政事務ヲ擔任スルコトアリ其特別ナル職務ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘキモノトス町村ノ助役ハ町村長ノ事務ヲ補助シ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理スヘキモノトス

市長町村長ハ市町村會ノ同意ヲ得テ市參事會員又ハ町村助役ヲシテ市町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ其分掌ノ事務ハ市參事會員又ハ町村助役ノ職權ニ屬シ市參事會員又ハ町村助役ハ一箇ノ行政廳トシテ行動スルモノナルカ故ニ其事務ニ關スル責任ハ此等ノ者ニ歸シ市參事會町

村長ハ之ニ對スル監督上ノ責任ヲ有スルニ過キス市町村收入役ハ市參事會町村長ノ命令ニ依リテ市町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲナシ其他會計事務ヲ掌ルモノトス收入役ハ現金ヲ保管スル義務ヲ有スルモノナレトモ自己ノ責任ヲ以テ他人ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得市町村書記ハ市長町村長ニ屬シ庶務ニ從事ス區長及其代理者ハ市參事會町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區內ニ關スル市町村行政事務ヲ補助執行スルモノトス但シ東京市京都市大阪市及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ區長ハ市長市參事會若ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ其委任ニ依リ區內ニ關スル市ノ事務ヲ掌リ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ若ハ其委任ニ依リ區內ニ關スル市收入役ノ事務ヲ掌ル又區附屬員ハ區長ニ屬シ其監督ヲ承ケテ庶務ニ從事シ區長故障アルトキハ上席附屬員之ヲ代理スルモノトス市町村ノ委員ハ市參事會町村長ノ監督ニ屬シ市町村行政事務ノ一部ヲ掌リ又ハ營造物ヲ管理監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルカ如キ補助的行政事務ヲ行フモノトス學務委員ハ小學校ノ設備及其基本財產ニ關スルコト及小學校經費豫算ノ調製等ニ付キ市町村長市參事會區長並

ヘキモノト爲シタリ又第二種ノ所得即チ公債社債ノ利子ニ付テハ後ニモ述フヘキカ如ク利子支拂ノ時其所得稅ヲ差引徵收スルカ故ニ徵收者ハ之ヲ納ムル者ノ總所得額ノ若干ナルヘキカヲ知ルコト能ハサルモノナリ故ニ勢ヒ其拂渡スヘキ利子額ニ比例シテ所得稅ヲ徵收スルノ制ト爲ササルヲ得ス第三種ノ所得ニ至リテハ以上ノ二者ト異ナリ所得ノ大小ハ直チニ其人ノ生活ノ裕否ト關係シ而モ其總額ハ之ヲ概算スルコト敢テ難カラサルモノナリ然シテ大所得者ハ小所得者ニ比スレハ同率ノ租稅ヲ負擔スルニ於テ比較的苦痛ヲ感スルコト少キハ爭フヘカラサル事實ナルカ故ニ所得ノ多少ニ從ヒ多少其稅率ヲ累進スルハ相當ノ事ト爲ス然レトモ累進稅ノ危險ハ累進ヲ極度ニ達セシムルニ在リ故ニ累進主義ノ租稅制度ヲ設クル場合ニ於テハ常ニ比例的累進例ハ所得一萬圓ヲ增ス每ニ稅率ニ十圓ヲ加フト言フカ如キ方法ヲ取ルカ又ハ累進率ヲ或程度ニ於テ限定スルコトト爲ササルヘカラス所得稅法ハ後者ノ方法ニ出テ千分ノ十ヨリ千分ノ五十五マテノ範圍內ニ於テ稅率ヲ累進スルコトト爲シタリ予ハ所得稅ニ在リテハ累進主義ニ依ルヲ以テ負擔者ノ苦痛ヲ平均スルト同時ニ

徵稅ノ目的ヲ達スルニ適スト信スル者ナリ

所得稅法第三條第一項ハ第三種ノ所得ニ付キ一定ノ稅率ヲ定ムト雖モ個人ノ所得ハ常ニ此稅率ニ依リテ所得稅ヲ課セラルルモノニアラス左ノ場合ニ於テハ所得稅ハ各自ノ所得金額ニ依ル稅率ニ從ヒテ之ヲ納ムヘキモノニアラスシテ其合算シタル所得總額ニ依ル稅率ニ從ヒテ之ヲ納メサルヘカラス

(イ) 戶主ト家族ト同居スルトキ　例ヘハ戶主ノ所得千圓ニシテ配偶者ノ所得七百圓ナル場合ニ於テハ戶主ハ千圓ニ付キ千分ノ十五配偶者ハ七百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキニアラスシテ戶主ハ千圓ニ付キ千圓ト七百圓トノ合算額千七百圓ニ對スル稅率即チ千分ノ十七配偶者ハ七百圓ニ付キ千圓ト七百圓トノ合算額千七百圓ニ對スル稅率即チ千分ノ十七ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキモノトス

(ロ) 同一戶主ニ屬スル家族ニシテ戶主ト別居シ二人以上同居スルトキ　例ヘハ戶主ノ直系卑屬ニシテ其妻子ト共ニ他ニ寄留スルカ如キ場合ニ於テ妻子各所得ヲ有スルトキハ其所得稅ハ各自ノ所得額ヲ合算シタル總額ニ對スル稅率ニ

從ヒテ之ヲ納メサルヘカラス

合算額ニ依リ所得稅率ヲ定ムヘキ場合ニ於テ三箇ノ問題ノ解決セサルヘカラサルモノアリ第一ハ同居者ノ一人ノ所得金額ニ付キ他ノ一人ヨリ審査ヲ請求シ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シ若クハ減損更訂ヲ求ムルコトヲ得ルヤ例ヘハ兄ノ所得金額決定ヲ不當トシ弟ヨリ審査ヲ請求シ又ハ弟ノ所得金額四分ノ一以上減損シタル場合ニ於テ兄ヨリ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ルヤ第二ハ審査決定、訴願裁決又ハ行政訴訟判決ニ依リ若クハ所得金額ノ更訂ニ依リ同居者ノ一人ノ所得金額ニ付キ異動アリタルトキハ他ノ同居者ノ稅率ニ影響スルモノナルヤ例ヘハ夫ノ所得千圓妻ノ所得三百圓ト決定セラレタル場合ニ於テハ夫妻共ニ千分ノ十五ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納メサルヘカラス然ルニ夫ハ其決定ヲ不當トシ審査ヲ求メ審査ノ結果五百圓ト決定セラレタルトキハ夫ハ五百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキハ勿論ナリト雖モ何等ノ異議ヲ述ヘサリシ妻モ亦其三百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納メタ可ナルヤ又例ヘハ夫ノ所得千圓妻ノ所得三百圓ナル場合ニ於テ夫

ハ其所得ノ半額ヲ減損シタル爲メ所得金額ノ更訂ヲ求メ五百圓ト更訂セラレタルトキハ妻モ亦其所得三百圓ニ付キ千分ノ十二ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキモノト爲ルヤ第三ハ所得金額決定ノ際ハ同居シタル者決定後別居スルトキハ就レノ稅率ニ依リテ課稅セラルヘキヤ例ヘハ同居ノ父子ニシテ父ノ所得四百圓子ノ所得三百圓ト決定セラレタル後父子別居スルニ至リタルトキハ各自ハ千分ノ十二ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキヤ將タ千分ノ十ノ稅率ニ依リテ所得稅ヲ納ムヘキヤノ三問題是ナリ

第一ノ問題ニ對シテハ予ハ之ヲ否定セサルヲ得ス同居者ノ一人ハ他ノ一人ノ所得金額ノ多少ニ依リ其納稅額ニ影響ヲ受クルカ故ニ其者ノ所得金額ニ付テハ利害ノ關係アル者ナルニハ相違ナシト雖モ所得稅法第三十六條及ヒ第四十條ハ明カニ納稅義務者ノミ審査又ハ更訂ヲ求ムルコトヲ得ルコトヲ規定スルヲ以テ納稅義務者ニアラサル者ハ利害ノ關係ヲ有スルコト同居者ノ如キ者ト雖モ所得金額ニ付キ審査又ハ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス第三十九條ニ至リテハ單ニ所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ト規定シ一見所得金額ノ決定ニ對シ利害關係アル者ニシテ不服アルトキハ何人ニテモ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ルカ如シト雖モ予ハ若ク信セサルナリ凡ソ不當又ハ違法ノ行政處分ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルハ之ニ依リテ其處分ノ取消ヲ求メ更ニ適當ナル處分ヲ受ケントスルカ爲メナリ故ニ法律ニ於テ特ニ定メサルモ之ヲ提起スルコトヲ得ル者ハ常ニ其處分ヲ受ケタル者ナラサルヘカラサルハ論ヲ俟タス故ニ所得稅法第三十九條モ亦所得金額ノ決定處分ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ得ルノ意ニ解セサルヘカラス若シ否ラスシテ利害關係アル者ハ何人ト雖モ訴願又ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ得ルモノトセハ納稅義務者ハ決定金額ニ付キ滿足スルノミナラス却テ之ニ依テ一種ノ公權ヲ行フ資格ヲ得タルカ如キ場合ニ於テ他ノ提起シタル訴願又ハ行政訴訟ノ爲メ其資格ヲ喪失スルコトト爲ルニ至ルヘシ此ノ如キハ人權保護ノ法文ヲ解シテ人權蹂躪ノ法文ト爲スモノニシテ解釋ノ當ヲ得タルモノト爲スコト能ハス

第二ノ問題ニ對シテハ予ハ之ヲ肯定スルニ躊躇セス所得稅法第三條第二項ハ

「戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム」ト規定シ同居者ノ所得稅率ハ常ニ其所得ノ合算額ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナルカ故ニ審査決定、訴願裁決又ハ行政訴訟判決若クハ所得金額ノ更訂ニ依リ同居者ノ一人ノ所得金額ニ異動ヲ生スルトキハ同居者所得ノ合算額ハ必ス其影響ヲ受ケテ異動スルヲ以テ他ノ同居者ノ所得ニ付キ適用スヘキ稅率ハ自ラ變更セサルヲ得ス此ノ如キハ決定、裁決、判決又ハ更訂處分カ其效力ヲ第三者ニ及ホスニアラスシテ法律ノ規定自ラ然ラシムルモノナリト謂ハサルヘカラス

第三ノ問題ニ對シテハ予ハ所得金額決定當時ノ稅率即チ合算額ニ依ル稅率ニ從ヒ其年ノ所得稅ヲ納メサルヘカラサルモノナリト信ス所得稅法第三條第二項ハ同居者ノ所得稅ハ其所得ノ合算額ニ依ル稅率ニ依リテ之ヲ納ムヘキコトヲ規定スルヲ以テ同一ノ家ニ屬スル者ニシテ同居スルトキハ常ニ該條文ノ適用ヲ受ケサルヘカラス而シテ若シ所得稅法ニシテ其第三條第二項ノ適用ヲ受ケタル者カ爾後別居シタル場合ニ於テハ其稅率ニ異動ヲ生スヘキモノトスルノ

意アルヤノトセハ此點ニ關シ何等カノ規定ヲ爲ササルヘカラス何トナレハ一年中ノ或期間ハ同居シ或期間ハ別居スル者ハ之ヲ同居者トシテ取扱フノ不穩當ナルト同時ニ之ヲ別居者トシテ取扱フモ亦事實ニ反スルヲ以テナリ然ルニ法律ハ此點ニ付テ何等ノ規定ヲ爲サス故ニ解釋上ハ法律ノ意ハ所得金額決定ノ際同居スルトキハ必ス第三條第二項ヲ適用スルモノニシテ其前後ニ於テ別居スルコトアルモ第三條第二項ノ適用上ニ於テハ之ヲ顧サルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス此事タル法文ノ解釋トシテ此ノ如ク斷定セサルヘカラサルノミナラス所得稅法施行規則第三十三條ハ明カニ此意ヲ規定シタルヲ以テ執行上ハ何等ノ疑アルモノニアラス

第三問ヲ解決スルノ機會ニ於テ併セテ別居者ノ所得三百圓以下ナル場合ニ於テ其者ハ仍ホ納稅義務ヲ有スルヤ否ヤノ問題ヲ解決スルハ全ク無益ニアラサルヘシ例ヘハ同居ノ父子ニシテ父ノ所得四百圓子ノ所得二百圓ナル者別居シタルトキハ父ハ四百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムヘキコトハ既ニ述フル所ノ如シト雖モ子ハ二百圓ニ付キ仍ホ納稅義務ヲ有スルヤ否ヤ

子ハ此點ニ付テモ稅率ニ付テ論シタルト同一ノ理由ヲ以テ子ハ二百圓ニ付キ千分ノ十二ノ割合ヲ以テ所得稅ヲ納ムルノ義務アルモノナリト信ス即チ所得稅法第六條ノ但書ハ第三條第三項ト關聯シテ規定セラレタルモノナルカ故ニ第三條第二項ニシテ所得金額決定ノ際ニ於テ其適用ヲ見ルヘキモノトセハ第六條但書ノ規定モ亦所得金額決定ノ際ニ於テ適用セラルヘキモノト爲シ決定ノ際現ニ同居シ其所得合算額三百圓以上ナルカ爲メ納稅義務者ト爲リタル者ハ其前後ニ於テ別居スルコトアルモ納稅義務者ニハ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラスト爲スヲ當然ナリトス

第五款　稅金徵收

第一　徵收方法

所得稅ノ徵收方法ハ所得ノ種類ニ依リ同一ナラス

第一種ノ所得ニ付テハ所得稅法ハ何等ノ規定ヲ爲サヽリシヲ以テ一ニ國稅徵收法ノ規定ニ依リ其所得稅ヲ徵收スヘキモノトス

第二種ノ所得ニ付テハ公債、社債ノ利子ヲ支拂フ者利子中ヨリ所得稅額ニ相當スル金額ヲ控除シテ其所得稅ヲ徵收スヘキモノナリ(所得稅法第四二條第二項所得稅法施行規則第三四條此場合ニ於テハ法律、勅令ニ於テ特ニ徵收方法ヲ定ムルカ故ニ國稅徵收法ハ全ク其適用ナキモノトス

公債、社債ノ利子ヲ支拂フ者即チ公共團體又ハ會社ニ於テ所得稅ヲ徵收シタルトキ其地方債又ハ社債ノ利子ニ係ルモノハ拂込書及ヒ計算書ヲ添ヘ之ヲ公共團體ノ事務所又ハ會社ノ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘク(所得稅法第三六條第一項、明治三十二年大藏省令第一七號其國債ノ利子ニ係ルモノハ翌月末日マテニ取纏メ所得稅徵收明細書ト共ニ其金額ヲ大藏大臣ニ報告シ大藏大臣ヨリ納入ノ令達アリタルトキハ拂込書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ニ拂込ムヘキモノトス(所得稅法施行規則第三六條第二項、明治三十二年大藏省達第七一六號)

上述ノ如ク納稅義務者ハ利子ノ支拂ヲ受クルトキ第二種ノ所得稅ヲ納ムルモノナルカ故ニ之ヲ徵收シタル者カ金庫ニ拂込ヲ爲スハ稅金ノ納付ヲ爲スニアラスシテ其保管ニ係ル官金ノ拂込ヲ爲スモノナリ故ニ其拂込ヲ怠ルコトアル

モ之ニ對シテ滯納處分ヲ執行スルコト能ハス然レトモ公債社債ノ利子支拂者ハ其徵收シタル所得稅金ヲ金庫ニ拂込マサルヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ怠ルトキハ民事裁判所ノ判決ヲ得テ强制執行ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論公債社債ノ利子支拂者ニシテ利子支拂ノ際所得稅ヲ徵收セサルトキハ法律ノ命シタル義務ヲ盡ササルモノナルヲ以テ政府ハ之ニ對シテ損害賠償ノ要求ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

第三種ノ所得ニ付テハ第一種ノ所得ト同ジク其徵收方法ニ關シ法律ハ亦何等ノ規定ヲ設ケス故ニ之ニ關シテハ國稅徵收法ヲ適用スヘキモノトス唯第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘキモノナルカ故ニ(明治三十年勅令第一九五號)此點ニ於テ第一種ノ所得稅ト異ナルアルノミ

第二　徵收時期

所得稅ノ徵收時期モ亦所得ノ種類ニ依リテ同シカラス

第一種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其所得ヲ決定シタル都度之ヲ徵收ス(所得稅法第四二條第一項法人ノ所得ハ所得稅法第七條第九條所得稅法施行規則第三條第三十一條ニ依リ各事業年度毎ニ其決算額ニ依リテ決定スルモノニシテ所得金額ノ決定アリタルトキハ直チニ相當ノ手續ニ依リテ其所得稅ヲ徵收スヘキモノナリ)

第二種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其金額支拂ノ都度之ヲ徵收スヘキモノトス(所得稅法第四二條第二項所得稅法施行規則第三四條)

第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ年額ヲ二分シ其年九月及ヒ翌年三月ノ二期ニ於テ徵收スヘキモノナリ(所得稅法第四二條第三項但シ此原則ニ對シテハ左ノ二例外アルモノトス

一　納稅義務者ニシテ所得稅法施行地ニ納稅管理人ヲ置カスシテ外國ニ住所若クハ居所ヲ移ストキハ納期ニ拘ラス直チニ其所得稅ヲ徵收スルコトヲ得ルモノナリ(所得稅法施行規則第四二條第三項但書)蓋シ帝國國權ノ及ハサル所ニ移住スル場合ニ於テ尙ホ納期ノ利益ヲ許與スルトキハ場合ニ依リテハ稅金徵收ヲ爲スコト能ハサルコトアルヘキヲ以テ帝國ニ於テ納稅ヲ爲スニ適スル處置ヲ定メスシテ國外ニ移住スルトキハ其移住ノ際ニ於テ稅金ノ徵收ヲ爲シ

以テ國庫ノ缺損ヲ豫防シタルナリ然レトモ所得稅法第四十二條第三項但書ハ納期ノ利益ヲ奪フコトヲ定メタルモノニシテ失權ニ關スル規定ナルカ故ニ之カ解釋ハ嚴正ナラサルヘカラス隨テ左ノ場合ニ於テハ其適用ナキモノトス

（イ）帝國內所得稅法ヲ施行セサル地ニ移住スルトキ　何トナレハ法律カ「帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキ」ト言フヲ以テナリ

（ロ）當初ヨリ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納稅管理人ヲ定メサルトキ　何トナレハ法律ハ「住所若クハ居所ヲ移ストキ」ト規定シ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有シタル者カ之ヲ移ストキニ限リ該條文ヲ適用スヘキモノト爲シタルヲ以テナリ故ニ帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者ニシテ所得稅法第二條ニ依リ納稅義務アル者納稅管理人ヲ定メサルモ即時徵收ヲ爲スコト能ハサルモノナリ

（ハ）帝國內ニ住所又ハ居所ノ就レカ其一ヲ有スルトキ　法律ハ「住所若クハ居所ヲ移ストキ」ト言フヲ以テ住所又ハ居所ヲ移ストキハ繼令帝國內ニ居所又ハ住所アルモ所得稅ノ即時徵收ヲ爲スコトヲ得ルカ如シト雖モ該條ノ帝國ニ於テ住居ノ關係ヲ絕チタル者ニノミ納期ノ利益ヲ失ハシムルノ趣旨ニ依リテ規定セラレタルモノナルカ故ニ條文ノ意ハ住所ノミヲ有スル者カ住所ヲ外國ニ移シ又ハ居所ノミ有スル者カ居所ヲ外國ニ移ストキハ所得稅ノ即時徵收ヲ爲スコトヲ得ルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス隨テ外國ニ住所ヲ移スモ帝國內ニ居所ヲ有スルカ又ハ外國ニ居所ヲ移スモ帝國內ニ住所ヲ有スルトキハ該條文ヲ適用スルコト能ハサルナリ

二　所得ノ減損ヲ理由トシ所得金額ノ更訂ヲ求メタル場合ニ於テハ政府ハ其確定ニ至ルマテ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得ルモノナリ（所得稅法第四十三條）蓋シ更訂ノ結果場合ニ依リテハ納稅義務消滅シ又ハ消滅ニ至ラサルモ甚シク減少スルニ至ルノ推定アルニ彌テ既定ノ稅金ヲ徵收スルハ納稅者ヲ苦シムルコト甚シキヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テ稅金ノ徵收ヲ猶豫シ事ノ確定ヲ待テ之レカ徵收ヲ爲スヲ穩當ト爲シタルナリ

納期ニ關スル說明ヲ終ルニ臨ミ茲ニ前期納稅後所得稅額ニ異動アリタル場合ニ於ケル稅金ノ徵收ニ付キ一言ヲ附加スルノ必要アリト認ム第三種ノ所得ニ付

キ前期納稅後審査決定訴願裁決訴訟判決又ハ所得金額更訂ニ依リ所得金額ニ變更アリ隨テ所得稅額ニ異動アリタル場合ニ於テ若シ稅額增加シタルトキハ前期徵收額ニ對スル不足額ハ直チニ之ヲ徵收スヘキハ勿論ナリト雖モ若シ稅額減少シタルトキハ前期ノ過徵額ハ之ヲ還付シ後期ニ至リ更ニ相當額ヲ徵收スヘキヤ將タ後期ニ於テハ唯不足額ノミヲ徵收スヘキヤ所得稅法施行規則第三十八條ハ後段ノ見解ヲ取リ前記ニ於テ納メタル稅金ニシテ改正稅額ノ金額以上ナルトキハ其超過額ヲ還付シ改正稅額ノ全額以下ナルトキハ後期ニ於テハ其不足額ノミヲ徵收スヘキモノト爲シタリ卽チ所得稅ハ年額ニ依リテ納稅者ノ義務ト爲リタルモノナルカ故ニ納期前ニ納ムルモ其額ニシテ年額ニ超エサル限リハ納稅者ハ義務ナキニ納付ヲ爲シタルニアラス隨テ還付ヲ要スヘキ理アルナシ唯相當納期ニ於テ其不足額ヲ徵收スレハ可ナリト爲シタルナリ予ハ此規定ヲ以テ會計法ノ精神ニ反セスシテ能ク實際ノ便宜ニ適スルモノト爲スモノナリ

第六款　納稅地

第一種ノ所得ニ係ル所得稅ニ付テハ法律ハ別ニ納稅地ヲ定メス然レトモ特別ノ規定ナキ限リハ法人ノ本店所在地ヲ以テ納稅地ト爲スコト當然ナルヲ以テ所得稅法施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得稅ハ本店所在地ニ於テ之ヲ納ムヘキモノトス但シ所得稅法第二條ニ依リ納稅義務アル法人ハ納稅地ヲ定メ其地ノ稅務署ニ申告セサルヘカラス故ニ其納稅地トシテ申告シタル地ニ於テ所得稅ヲ納ムヘキモノナリ(所得稅法第四四條第二項所得稅法施行規則第四〇條)

第二種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其金額ヲ支拂フ者差引徵收ヲ爲スカ故ニ其納稅地ハ公債、社債ノ利子支拂地ニ在リト謂フテ可ナリ

第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス(所得稅法第四四條第一項)然レトモ此原則ハ左ノ場合ニ於テ例外ヲ見ルモノナリ(所得稅法第四四條第一項但書、第二項、所得稅法施行規則第四〇條)

(イ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有スル納稅義務者カ住所又ハ居所地以外ニ於テ納稅地ヲ定メ申告シタルトキ

(ロ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納稅地ヲ定メ申告シタルトキ

(ハ) 所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者カ納稅地ヲ申告セサル場合ニ於テ政府ニ於テ之ヲ指定シタルトキ

納稅地所得稅務官廳ハ獨リ稅金ノ徵收ノミヲ爲スニアラス所得稅ニ關スル一切ノ事務ハ總テ納稅地ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナリ即チ所得ノ申告調査決定通知審査等ハ納稅地所轄稅務官廳ニ於テセサルヘカラス故ニ法律及ヒ施行命令ハ納稅地ニ關シ左ノ事項ヲ規定シ當該官廳ヲシテ所得稅ニ關スル事務ヲ處理スルニ不便ナカラシメンコトヲ期シタリ

一　納稅地ヲ變更スルトキハ納稅義務者ハ其旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告セサルヘカラス(所得稅法施行規則第四一條)此場合ニ於テ新納稅地所轄稅務署ヨリ舊納稅地所轄稅務署ニ照覆シテ本人ノ所得ニ關スル通知ヲ得ルトキハ所得稅事務ヲ處理スルニ至大ノ便益アルヘシ

二　納稅義務者帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ其旨所轄稅務署ニ申告スルコトヲ要ス(所得稅法施行規則第四二條)

三　第三種ノ所得ニ付キ納稅義務アル者納稅地所轄稅務署ノ管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其地所轄ノ稅務署ニ申告セサルヘカラス(所得稅法施行規則第三九條此申告ニ依リ其他ノ稅務署ハ其所得ニ關シ納稅地ノ稅務署ニ通報スルノ機會ヲ有スヘシ

四　納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ納稅管理人ヲ定メ納稅地所轄稅務署ニ申告スルコトヲ要ス(所得稅法第四五條所得稅法施行規則第四三條)

第七款　制裁

所得稅法ノ定ムル制裁ニ三アリ處罰失職及ヒ缺格是ナリ(所得稅法第一四條第四六條第四七條)而シテ所得稅法ハ他ノ稅法ノ如ク刑法ノ總則中其一部ヲ適用セサルコトヲ定ムルコトナキカ故ニ其間則ハ刑法ノ總則ト相俟チテ適用セラ

ルルモノナリ

以上予ハ地租及ヒ所得稅ニ關スル說明ヲ了レリ尙ホ營業稅以下餘ス所多カラスト雖モ既ニ學年末ニ迫リ且ツ租稅法ノ主ナル部分ヲ講了シタルヲ以テ此ニ講筵ヲ閉チント欲ス諸子幸ニ焉ヲ諒トセラレンコトヲ

現行租稅法論終

法學士　若槻禮次郎講述

現行租稅法論

（三十六年度講義錄）

和佛法律學校

現行租稅法論目次

緒言……一
第一編　各種ノ租稅……一五
第一章　地租……一五
第一節　地租ノ沿革……一五
第二節　現行地租……四八
第一款　課稅ノ目的……五二
第二款　課稅ノ標準……一〇四
第三款　課稅ノ程度……一九三
第四款　納稅義務者……二〇〇
第五款　納期……二〇三
第六款　土地ニ關スル申諾申告……二〇七
第七款　土地臺帳……二二三

第八款　改良地ニ關スル特例……二三三
第九款　罰則……二四六
第二章　所得稅……二四九
第一節　所得稅……二四九
第二節　現行所得稅……二五六
第一款　納稅義務者……二五七
第二款　課稅標準……二七一
第三款　所得調査及ヒ審査機關……三二〇
第四款　課稅率……三四六
第五款　稅金徵收……三五六
第六款　納稅地……三六三
第七款　制裁……三六五

現行租稅法論目次終

ノ決定ヲ爲スヘキモノトス

右不許可ノ決定ハ左ノ事由アル場合ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ此決定確定ノ結果最高價競買人ハ其申込ニ付テノ拘束ヲ免カルルニ至ルモノトス(第一條後段)

一　競落期日ニ出頭シタル利害關係人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ競落ニ付テノ異議ノ原由ノ存在ヲ認メタルトキ

二　競買期日ト競落期日トノ間ニ於テ天災其他ノ事變ニ因リ不動產カ著シク毀損シタルトキハ先キニ最高價競買人タル呼上ケヲ受ケタル者ハ其事實及ヒ毀損ノ狀況ヲ疏明シテ其競買ヲ取消スノ權利アリ(民事訴訟法第六七八條)隨テ此取消ノ申立アリタルトキニ於テ裁判所カ審査ノ結果其申立ヲ正當ト認ムルトキハ其競買ヲ取消スヘキ決定ヲ爲シ競落不許可ノ決定ヲ爲スヘキモノトス

(注意)競賣ノ目的物ニ隱レタル瑕疵アリタル場合ニ民法第五百六十六條ノ適用ナキコトハ同法第五百七十條但書ノ規定スル所ナリ何トナレハ同條

但書ニ所謂强制競賣トハ物ノ競賣カ物ノ所有者ノ任意ニ出テサル競賣ヲ謂ヒ隨テ强制執行手續ニ於ケル强制競賣――民事訴訟法第六四二條以下――ノミナラス競賣法ニ依ル競賣ヲモ含ムモノト解釋スルヲ相當トスレハナリ)

三　數個ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ其内ノ或物ノ賣却代金ヲ以テ總債權者ノ要求額及ヒ競賣手續ノ費用ヲ辨濟スルニ足ルヘキトキハ其餘ノ不動産ニ付テハ競落不許可ノ決定ヲ爲シ此部分ニ關スル競賣ノ申立ヲ却下スルヲ相當ト信ス而シテ此場合ニ於テハ競落許否ノ決定前ニ債務者ヲシテ何レノ不動産ヲ賣却シ何レノ不動産ヲ保存スヘキカノ申立ヲ爲サシムルヲ相當ト信ス蓋辨濟ハ本來債務者ノ行爲タルヘキモノナレハナリ(民事訴訟法第六七五條參照――本條ハ競賣法ニ準用ナキモ條理上右ノ如ク論結スルヲ正當ト信ス)

第十一節　競落許否ノ決定ニ對スル抗告

競落許否ノ決定ニ對シテハ次ニ掲クル者ヨリ次ニ掲クル原因ニ據リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其即時抗告ノ期間ハ決定言渡ノ日ヨリ起算シテ七日ナリトス(非訟事件手續法第二五條民事訴訟法第四六六條)

第一　即時抗告ヲ申立テ得ヘキ者左ノ如シ

一　利害關係人――ハ競落ヲ許ス決定ナルト之ヲ許ササル決定ナルトヲ問ハス其決定ニ依リ損害ヲ被ムルヘキ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(民事訴訟法第六八〇條第一項但其抗告ノ理由ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基クコトヲ許サス必ス自己ノ權利ニ侵害ヲ來スヘキトキニ限ル(同法第六八二條第三項第六七三條)

二　競落人――ハ自己ニ競落ヲ許サルヘキ理由ナキトキ(例ヘハ自己ハ最高價競買人トシテ呼上ケラレタル者ニ非サルトキ又ハ競落決定ニ掲ケタル以外ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ許サルヘキモノナルコトヲ主張スルトキ(民事訴訟法第六八〇條第二項前段)

三　競買人――ハ全然競落ヲ許ササル決定タルト又ハ他人ニ競落ヲ許シタル

決定ナルトヲ問ハス自己カ競落ヲ受クヘキモノタリト主張セントスルトキハ又即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク(民事訴訟法第六八〇條第二項後段)此場合ニ於テハ此競買人ハ其抗告書ニ掲ケタル競買價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス(同第六八〇條第四項)

第二　抗告ヲ爲シ得ヘキ理由

競落許否ノ決定ニ對シテハ前陳ノ者ヨリ即時抗告ヲ爲シ得ヘシト雖モ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非スシテ左ニ掲クル理由ニ基クコトヲ必要トス

一　競落ヲ許サヽル決定ニ對スル場合——此場合ニ於テハ民事訴訟法ニ掲ケラルル競落不許可ノ原因ノ一モ存在セサルニ拘ハラス不許可ノ決定アリタリトノコトヲ理由トセサルヘカラス、尙ホ此點ニ付キテハ前節第二以下ヲ參照スヘシ(民事訴訟法第六八一條第一項)

二　競落ヲ許ス決定ニ對スル場合——此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十二條ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ存在ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキ六八ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(前同條第二項後段)ノ例ヲ擧クレハ競落許可決定中ニ競落人ナリト記載セラルル者ハ競落期日ノ調書ニ依レハ最高價競買人トシテ呼上ケラレタル者ニ非サルカ如キ、又ハ該決定ニ掲ケラルル金額ハ調書記載ノ最高價額ト牴觸スルコトノ如シ

右ノ外再審ノ手續ニ於ケル取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ノ要件民事訴訟法第四六八條(第四六九條參照)ト同一ナル理由存スルトキハ右一、二ニ掲クル制限ニ拘ハラス競落許否ノ決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(同第六八一條第三項)

此抗告申立ノ手續ハ民事訴訟法第四百五十六條以下ノ手續ニ準據スヘキモノトス(非訟事件手續法第二五條)

第三　抗告ノ效果

非訟事件手續ニ於ケル抗告ハ特ニ定メタル場合ノ外不服アル裁判ノ執行ヲ停止スルノ效力ヲ有セサルモ(非訟事件手續法第二一條)右競落許否ノ決定ニ對ス

ル抗告アルトキハ執行停止ノ效力ヲ生ス隨テ抗告アリタル後ハ該決定ニ基キ競賣代價ノ支拂ヲ受クル等爾後ノ手續ヲ遂行スルコトヲ得ヘカラス(第三二條第二項、民事訴訟法第六八〇條第三項)

不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ハ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又之ヲ理由ナシトスルトキハ裁判所ハ意見ヲ付シテ三日ノ期間内ニ抗告ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニ於テハ訴訟記錄ヲモ送付スヘキモノトス(非訟事件手續法第二五條、民事訴訟法第四五九條)

第四　抗告裁判所ノ審理手續

抗告裁判所ニ於ケル審理手續ハ非訟事件手續法(第二一條以下)ニ特別ノ規定ナキ限ハ民事訴訟法所定ノ一般ノ抗告ニ關スル規定ニ從フヘキモノナルモ競落許否ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ左ノ特別規定アリ(民事訴訟法第六八二條、第六八三條)

一　抗告裁判所ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムルタメ抗告人ノ相手方ヲ定ムヘキモノトス

二　一ノ競落許否(許可若クハ不許可)ノ決定ニ對シ數箇ノ抗告ノ申立アルトキハ之ヲ併合シテ審理スヘキモノトス是レ一ノ競落許否ノ決定ニ對スル裁判カ相牴觸スルノ結果ヲ生センコトヲ避ケンカ爲メナリ

三　抗告裁判所ニ於テ抗告カ適法ナル形式ヲ具備シ適法ノ期間内ニ申立テラレタリト認メ競落許否ノ當否ヲ判定スルニ方リテハ民事訴訟法第六百七十三條並ニ第六百七十四條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

四　抗告裁判所カ原裁判所ノ競落許否ノ裁判ヲ變更シ又ハ之ヲ廢棄シタルトキハ其裁判ヲ受ケタル者ニ對シテ抗告裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ告知スル(非訟事件手續法第一八條)ノ外尙ホ原裁判所ニ於テハ其決定ヲ裁判所ノ掲示板ニ掲示シテ公告スヘキモノトス

五　尙ホ抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要スルハ非訟事件手續法(第二二條)ノ定ムル所ニ係リ、此裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク此再度ノ抗告ニ

對スル裁判ニ對シテハ不服ノ理由ノ如何(該裁判カ法律ニ違背スルコトヲ主張スルト否トヲ問ハス第三次ノ抗告ヲ爲ス能ハサルコトハ前ニ競賣開始決定ノ抗告ニ付キ述ヘタルト同シ

第十二節　競落許否決定ノ效力

競賣申立ヲ受ケタル裁判所ノ決定タルト抗告裁判所ノ決定タルトヲ問ハス競落許否ノ決定ハ左ノ效果ヲ生ス

第一　競落ヲ許ササル決定確定シタルトキ

此場合ニ於テハ左ノ效果ヲ生ス

一　競落人ハ(イ)初メ競落許可ノ決定ヲ受ケ之ニ對シテ抗告ヲ申立テ其結果競落不許ノ決定ヲ受クルニ至リタル場合ト(ロ)初メヨリ競落ヲ許サレサリシ場合ナルトヲ問ハス其競落ヲ許ササル決定確定スルトキハ其申出ヲタル競買ノ責ヲ免カル(第一條)

二　競落ヲ求メ之ヲ許サレンコトヲ抗告ニ依リ主張シタル競買人モ亦其申出ヲタル競買ノ責ヲ免カル(第一條民事訴訟法第六八〇條第二項第四項)

三　競落ヲ許ササル理由カ前ニ(第九節第二ノ(乙)ヲ參照)競落ノ許可ニ對スル異議ニ付キ説明セル如ク如何ナル場合ニ在テモ競落ヲ許ササル場合ニ該當シ競落不許可ノ決定ト共ニ競賣ノ申立カ却下セラレタルトキハ此決定ノ確定ト共ニ競賣手續ハ終了スヘク若シ單ニ其競賣ニ依ル競落ヲ許ササルニ過キサルトキハ更ニ新競賣ヲ爲スヘキモノトス(民事訴訟法第六七六條)

第二　競落ヲ許ス決定確定シタルトキ

競賣ノ申立ヲ受ケタル裁判所若クハ抗告裁判所ニ於テ競落ヲ許ス決定ヲ爲シ其決定確定シタルトキハ競落人ハ直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要シ此支拂アリタルトキハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘク(第三三條第一項)若シ競落人カ代金支拂ノ義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命セサルヘカラス(民事訴訟法第六八八條)茲ニ注意スヘキハ競賣手續ニ於ケル不動

產ノ所有權ハ何時ヨリ競落人ニ移轉スヘキヤチフコト之ナリ强制執行手續ニ於テハ其目的タル不動產ノ所有權ハ競落許可ノ決定アリタルトキニ競落人ニ移轉スル旨ノ明文アレトモ(民事訴訟法第六八六條參照)此法條ハ競賣法ニ準用ナク且競賣法ニハ別段ノ明文ナキカ故ニ不動產ノ所有權ハ(イ)競落許可ノ決定アリタルトキハ直ニ競落人ニ移轉スルヤ、(ロ)又ハ競落許可決定ノ確定ト共ニ之ニ移轉スルヤ、(ハ)又ハ該決定ノ確定後代價ノ支拂アルト共ニ之ニ移轉スルヤノ疑ヲ生スヘシ而シテ予ハ之ニ付テハ前揭競賣法第三十三條第一項ノ明文ハ單ニ權利移轉ノ登記ヲ囑託スルノ時期ヲ規定シタルモノト解スヘク同條ニ依リ權利移轉ノ時期ヲ規定シタリト解釋スル能ハサルモノト信ス[illegible]依テ按スルニ非訟事件ニ於ケル決定ハ之カ告知ト同時ニ其效力ヲ生スルモノナルカ故ニ(非訟事件手續法第一八條第一項)競落許可ノ決定ハ又タ其告知ノ時ヨリ其效力ヲ生スルモノト云ハサルヘカラス而シテ競落ノ許可ハ最高價競買人カ競落人ト爲ルコト換言スレハ不動產所有權等競賣ノ目的タル權利ヲ取得スルコトヲ此者ニ許スヲ以テ目的トスルモノニシテ競落許可決定ノ效力トハ

即チ此事實ヲ認許スルコトナルカ故ニ競賣ノ目的タル權利ハ此時期ニ於テ競落人ニ移轉スルモノト云ハサルヲ得ス隨テ競落許可決定後ニ不動產ニ生シタル果實ハ又タ競落人ノ所有ニ歸スルモノト云ハサルヘカラス但競落人カ代金支拂ノ時期ニ其支拂ヲ爲ササルトキハ不動產ハ再競賣ニ付セラルヘキモノナルカ故ニ競落人ハ此ノ如キ法律上ノ條件附ニテ不動產ノ所有權ヲ取得スト云フヘキモノト信ス(獨逸ノ不動產競賣法第九〇條ニハ競落ノ即時ニ所有者ト爲ル旨ノ明文アルヲ以テ前示ノ如キ疑ヲ生セス)[illegible]右陳フルカ如ク競賣手續ニ於ケル所有權ノ移轉ハ裁判ニ依テ生スルモノニシテ所有者ノ意思如何ヲ問ハス又タ不動產カ債務者ノ所有ニ屬スルト第三者ノ所有ニ係ルトヲ問ハス又タ權利ノ移轉カ未タ登記簿ニ登記ナクトモ競落許可決定ノミニ依リ競落人ニ移轉スヘキモノト信ス但其不動產ノ引渡ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ之ヲ求ムルコトヲ得サルハ法律ノ規定スル所ナリ(第三二條第二項民事訴訟法第六八七條第一項——尙ホ競賣法第二條第三項ニ競賣ノ目的物ヲ受取ルニ付キ制限ノ存スルコトニ注意スルヲ要ス)然レトモ競

落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ其不動産ヲ從前ノ所有者ヲシテ占有セシムルトキハ其間不動産ニ付キ競落人等ノ利益ヲ害スル行爲ヲ爲スノ虞ナキニ非サルヲ以テ競落人若クハ競賣申立人ヨリ管理人ヲシテ右ノ時間該不動産ヲ管理セシメンコトノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ之ヲ命スヘク此場合ニ於テ不動産ヲ占有スル舊所有者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ競賣申立人ノ申立ニ依リ執達吏ヲシテ右ノ占有ヲ解キ不動産ヲ管理人ニ引渡サシムヘキモノトス(民事訴訟法第六八七條――注意、管理人ノ資格ニ付キテハ法律ニ別段ノ規定ナキカ故ニ前陳管理ノ申立ヲ爲ス者ニ於テ其際相當ト認ムル者ヲ指名シ得ヘク裁判所ニ於テ之ヲ相當トスルトキハ其者ヲ以テ管理人ト爲スコトヲ得ヘシ又若シ之ヲ不相當トセハ更ニ管理人候補者ヲ指名セシムルカ又ハ裁判所ニ於テ相當ト認ムル者(例ヘハ執達吏ノ如キ)ヲ以テ管理人ニ任スヘキモノト信ス)

右ニ陳ヘタル效力ハ競落許可ノ決定アレハ其確定前ニ於テ發生スヘキコト前陳ヘタル理由ニ依リ之ヲ知リ得ヘキモ若シ此決定ニ對シテ抗告ノ申立アルトキハ執行停止ノ效力ヲ生スル旨ノ規定アルカ故ニ抗告ノ提起ト共ニ右陳ヘタル處分ハ之ヲ命スル能ハサルニ至ルモノトス其他競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權竝ニ抵當權モ亦競落許可ノ決定アルニ因リ消滅スヘキモノトス(第二條第二項及ヒ以上ノ推論參照)

次ニ注意スヘキハ競落許否ノ決定ハ何時確定スルヤフコト之ナリ此點ニ付キテハ特別ノ明文ヲ存セスト雖モ(一)此決定ニ對シ裁判言渡ノ日ヨリ七日ノ期間內ニ即時抗告ノ申立ナキトキ、(二)適法ノ期間內ニ即時抗告ノ申立テアリタル場合ニ於テ之ニ對スル抗告裁判所ノ裁判ニ對シ之カ告知後七日ノ期間內ニ即時抗告ノ申立ナキトキ――即時抗告ニ對スル裁判ニ對スル抗告ハ又タ即時抗告タルヤ若クハ然ラスシテ別ニ申立期間ノ制限ナキ普通ノ抗告ナルヤニ付キテハ疑ナキニ非サルヘキモ抗告裁判所ノ決定モ亦競落ノ許否ニ關スルモノナルカ故ニ之ニ對スル抗告ハ即時抗告ト解スヘキモノト信ス、(三)抗告裁判所ノ裁判ニ對シ適法ノ期間內ニ適法ノ形式ニ從ヒ即時抗告ノ申立テアリタル場合ニ於テ之ニ對スル裁判アリタルトキハ其裁判ニ對シテハ最早抗告ヲ爲ス能ハサル

カ故ニ――非訟事件手續法第二四條――競落許否ノ決定ハ之ニ依リ確定スル場合ニ於テ

第十三節　新競賣及ヒ再競賣

競賣手續ハ前陳ヘタル順序ヲ經テ競落ニ至ルモノナルモ場合ニ依リ競落許可決定前再三競賣ヲ爲サザルヲ得サルコトアリ又タ此決定後ニ於テ更ニ競賣ヲ爲サザルベカラザルコトアリ前者ノ場合即チ競落許可決定前再三競賣ノ手續ヲ爲サザルベカラザル場合ニ於テハ再度以後ノ競賣ヲ新競賣ト稱シ後者ノ場合即チ既ニ競賣實施ヲ結了シ競落ノ許可ノ決定アリタル後ニ於テ同一不動産ニ付キ更ニ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ其競賣ヲ新競賣ト稱ス

第一節　新競賣ヲ爲スヘキ場合

競賣期日ニ於テ許スヘキ競賣價額ノ申出ナキトキ即チ競賣期日ニ於テ競賣セントスル者カ毫モ出頭セサルトキ若クハ出頭シタルモ最低競賣價額又ハ其以上ニ競賣ヲ申出ツル者ナキトキハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ指定シ之カ期日公告ヲ爲シ更ニ執

達吏ニ之カ競賣ノ手續ヲ爲サンコトヲ命スヘキモノトス但其新競賣期日ハ少クトモ十四日ノ後タルヘシ(第三二條第二項、民事訴訟法第六七〇條――新競賣ニ付キ民事訴訟法第六百四十九條第一項ノ適用アリヤ否ニ付キテハ前ニ競賣ニ付キ陳ヘタル所ヲ參照スヘシ)

二　競賣ヲ實施シ相當ノ競買ノ申立アリタルモ競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因アルタメ其競落ヲ許サザリシトキニ於テ其原因カ絶對ニ競落ヲ許サザル場合ナルニ非サルトキ(第九節第二ノ(乙)ヲ參照)ハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ新競賣期日ヲ定メテ之カ期日ノ公告ヲ爲シ執達吏ヲシテ競賣ヲ爲サシムヘキモノトス但其新競賣期日ハ少クトモ十四日ノ後タルヘシ(第三二條第二項、民事訴訟法第六七六條)

三　競賣期日ト競落期日トノ間ニ於テ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルカタメ最高價競買人カ其競買ヲ取消スノ申立ヲ爲シ其申立ヲ相當ト認メタル結果競落ヲ許可スルニ至ラザリシトキモ亦裁判所ハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定メ更ニ競賣ヲ實施セサルヘカラス(第三二條第二

項、民事訴訟法第六七八條）

第二　再競賣ヲ爲スヘキ場合

一タヒ競落許可ノ決定ヲ爲シ其決定確定シタルモ競落人ヨリ直チニ代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ其不動産ノ再競賣ヲ命セサルヘカラサルコトハ前陳ヘタルカ如シ

最初ノ競賣ノ爲メニ定メタル最低競賣價額其他ノ賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ之ヲ適用スヘク再競賣ノ期日ハ少クトモ十四日ノ後タルヘシ但競落人カ再競賣期日ノ三日前迄ニ代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣ノ手續ヲ取消スヘキモノトス

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買人ト爲ルコトヲ得ス且再競賣ニ於ケル競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ其不足額ヲ負擔スヘク右ノ外一般ニ再競賣ノ費用ヲ負擔スヘキモノトス但再競賣ニ於ケル競落代價カ前ノ競落代價ヨリモ高キトキハ其差額ヲ請求スル能ハサルモノトス（第三二條第二項、民事訴訟法第六八八條）

前陳新競賣並ニ再競賣ニ於テ競賣ノ準備其他執達吏カ競賣ヲ實施スル等ノ手續ハ凡テ一般ノ競賣ノ場合ニ同シ

第十四節　配當要求

同一債務者ニ對スル數多ノ債權者カ相共ニ一ノ競賣申立ヲ爲シタルトキ其申立適法ナレハ右陳ヘタル手續ニ從テ競賣手續ヲ進行スヘキモノトス又タ同一債務者ニ對シ既ニ或債權者ヨリ一ノ競賣申立アリテ之ニ依リ競賣手續進行中ナルトキハ登記簿ニ登記アル不動産上ノ權利者並ニ登記簿ニ登記ヲ要セサル不動産上ノ權利者ハ其權利ヲ證明シテ競賣代金中ヨリ辨濟ヲ求ムル旨ヲ裁判所ニ申立ツヘク然ルトキハ裁判所ハ其權利ノ有無ヲ審査シ民法、商法其他特別法ノ定ムル所ニ從ヒ權利ノ順位ニ應シテ競賣代金ヲ配當スヘモノトス（第二條、第三三條）

強制執行手續ニ於テハ配當ノ要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲シ得ルニ止マルモ民事訴訟法第六四六條競賣法ニハ別ニ此ノ如キ規定ナキカ故ニ實際

配當ノ結了スル前ニ之ヲ要求スルヲ以テ足ル但裁判所ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滯ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付セサルヘカラサルカ故ニ(第三三條第二項)登記簿ニ登記アル不動産上ノ權利者ニシテ順位優先ナル債權者ハ別ニ何等ノ要求ヲ爲ササルモ裁判所ニ於テ相當ノ配當ヲ爲スヘキモノトス但一應其債權ノ元金利息費用等ノ計算書ヲ提出シテ配當ノ要求ヲ申立ツル方其者ノ利益ナリトス

第十五節　代金支拂竝ニ配當實施

競賣手續ヲ爲シタル裁判所ノ決定ナルト抗告裁判所ノ決定ナルトヲ問ハス苟モ競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ競落人ハ直チニ其代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要スルハ法律ノ規定スル所ニシテ(第三三條第一項)若シ競落人カ此義務ヲ履行セサルトキハ裁判所ハ再競賣ノ手續ヲ爲スヘク此場合ニ於テハ前ノ競落人ニ一定ノ制裁ヲ課スコト前ニ陳ヘタルカ如シ

然レトモ競落許可決定ニ對シ抗告ノ申立アリタル場合ノ如キニ在テハ競落人

力カ著作物トシテ顯ハルルニ至リ著作權ナル權利ノ發生スルモノトス其ノ寫眞ハ著作權法ニ於テ保護スヘキ著作物ナリヤ否ヤハ學說竝ニ立法例ノ一致セサル所ナリ蓋シ寫眞ハ機械的竝ニ化學的方法ニ依リ自然ノ形象ヲ撮寫スルニ過キサルモノナルカ故ニ學藝若クハ美術ノ著作物トハ其趣ヲ異ニスルカ如キ觀アルヲ以テ學者間ニ議論ノ生スルヲ免レサルナリ故ニ獨逸丁抹、伊太利、那威、瑞西ニ於テハ寫眞ニ關シテハ學藝美術ノ著作物ト其保護ノ程度及ヒ期間ヲ異ニス(我著作權法亦然リ)之ニ反シテ西班牙、北米合衆國、英國、「メキシコ」、「モナコ」、露國ニ於テハ之ヲ美術著作物トシ繪畫、彫刻等ト同一ノ保護ヲ與フ佛國伊太利、墨太利ノ著作權法ニ於テハ寫眞ニ關シ何等ノ規定ナキヲ以テ寫眞ハ美術上ノ著作物中ニ包含スヘキモノナリヤ否ヤニ關シ學者間ニ議論ヲ惹起シ未タ一定セス而シテ佛國ニ於テハ三說アリ第一說ハ寫眞ハ美術上ノ著作物ニ包含スト爲スノ說ニシテ「ソーヴェル」「プレオエート」之ヲ唱ヘ巴里民事裁判所亦此說ニ基キ判決セリ(「ソーヴェル」寫眞著作權論「オー」八千八「著作權論」一〇五節、千八百六十三年六月十二日巴里民事裁判所判決)第二說ハ寫眞

美術的著作物ニ非スト云ヒ(モリエール)之ヲ唱ヘ(セイヌ)廳ノ刑事裁判所此說ニ從ヒ判決ス(ヴェルヌ)(美術著作物保護論一五七頁以下千八百六十四年三月十六日(セイヌ)刑事裁判所判決)第三說ハ寫眞ハ必スシモ常ニ美術著作物ニ非ス裁判所ハ各場合ニ於テ美術著作物ト看ルベキヤ否ヤヲ決定スベキモノナリトノ說ニシテ千八百六十二年五月十三日巴里裁判所並ニ千八百六十二年十一月二十八日大審院ノ判決ハ此趣旨ニ基ク(ヴェルヌ)之ヲ要スルニ寫眞ニ關シテハ議論ノ存スル所ナリト雖モ近時ノ學說並ニ立法例ハ之ヲ美術著作物ナリトシ著作權法中ニ之ヲ規定スルノ主義ヲ採用スルニ至レリ蓋シ寫眞モ亦精神的勞力ノ產物ニシテ其撮寫裝置ノ配合ニ於テ美術的思想ヲ發現スルモノナレハ之ヲ美術著作物トスルヲ至當ナリトスト云フニ在リ我著作權法モ此主義ニ依リ第一條ニ於テ寫眞ヲ著作物中ニ列記セリ

次ニ又建築物ハ著作權ノ目的物ト爲リ得ルヤ否ヤニ關シテハ議論ノ存スル所ニシテ立法例亦一定セス建築物ニ關シテハ二箇ノ問題アリ(イ)建築物其レ自體ハ著作者ノ同意ナクシテ摸製シ得ルヤ(ロ)建築家ノ作リタル設計ハ其人ノ同意ナクシテ利用サレ得ルヤノ問題是ナリ獨逸丁抹伊太利瑞典ノ著作權法ニ於テハ建築ノ設計ノ摸製ハ之ヲ禁スルモ建築物自體ノ摸製ノ自由ヲ謳ム其理由トスル所ハ公衆ノ目ニ觸ルル建物ノ摸製ヲ禁スルコトノ困難ナルト建築物ノ主要ナル點ハ智能的思想ヨリハ寧ロ材料ニ在リテ存スト云フニ在リ佛國ニ於テハ建築物ニ關シ何等ノ規定ナキヲ以テ議論ヲ生シタルモ學說並ニ判決例ハ建築物モ亦美術著作物中ニ包含ストノ說ヲ採ルモノ多キカ如シ(ルヌーアール)著作權法論第二卷八〇頁(ブーイエー)著作權法論九六節乃至九九節千八百五十五年四月二十日(セイヌ)民事裁判所判決)我著作權法ニ於テハ此論爭ヲ防クカ爲メニ建築物ニハ著作權法ヲ適用セサルコトヲ明言セリ(第五二條)

第七章　著作權者

著作權者トハ著作權ノ主體タル者ノ謂ニシテ著作者ノ著作權者ト同一ナル勿論ナ

リ蓋シ著作權ハ精神的創作ノ事實ニ依リテ發生スルモノナレバ著作權ノ著作者ニ屬スルヤ固ヨリ言ヲ俟タス而シテ著作權ハ一ノ財產權ナレハ有體物ノ所有權ト同シク相續、讓渡シ得ヘキモノナリ故ニ著作權ハ著作者ノ死後一般財產ト共ニ相續人ニ移轉シ又著作者ノ生存中ニ於テハ賣買贈與等ニ依リテ他人ニ讓渡スコトヲ得(第二條)隨テ著作者ノ相續人又ハ讓受人ハ著作權者タルコトヲ得

此ノ如ク著作者ノ著作權者タルハ固ヨリ言ヲ俟タスト雖モ事實著作權者ニ非スシテ著作權者タル場合アリ即チ左ノ如シ

(一)　法人　著作權ノ主體ハ必スシモ自然人ニ限ラス國府縣、協會、會社等ノ如キ法人モ亦其主體タルコトヲ得例ヘハ此等法人カ其機關タル自然人ヲシテ著作セシメタル場合ニ於テハ著作物ノ著作權ハ其自然人ニ屬セスシテ法人ニ屬スルカ如シ唯此場合ニ法人ハ事實著作シタルモノニ非サルカ故ニ原始著作權(オリジナル)ヲ有スルモノニ非スシテ傳來著作權(デリヴァティーブ)ヲ有スルモノナリトノ說アリ即チ原始著作權ハ自然人ニ屬スルモノニシテ法人ハ其著作權ヲ繼承シタルニ過キスト云フニ在リ此說モ亦一理アリト雖モ我著作權法ニ於テハ法人ノ原始著作權ヲ認ムルモノノ如シ(第六條)

(二)　寫眞ノ囑託者　著作權ノ著作者ニ屬スルハ著作權法ノ原則ナリト雖モ寫眞ニ關シテハ例外ヲ設ケ寫眞肖像ノ著作權ハ著作者タル寫眞師ニ屬セスシテ其囑托者ニ屬ストセリ著作權法第二十五條ニ曰ク

他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

普通ノ原則ヨリ言ヘハ寫眞ノ著作權モ之ヲ著作シタル者即チ寫眞師ニ屬セシムルヲ正當トスト雖モ若シ此ノ如ク爲ストキハ寫眞師ハ囑託ニ依リテ撮寫シタル人物ノ寫眞ヲ其人ノ許諾ヲ經ス隨意ニ之ヲ複寫シ發賣頒布スルコトヲ得其結果トシテ囑託者ノ人權ヲ害スルヲ以テ我著作權法ハ囑託ニ係ル肖像ノ寫眞ニ限リ其著作權ハ寫眞師ニ屬セスシテ囑託者ニ屬ストセリ隨テ寫眞師ニ撮寫セシメタル人物ノ寫眞ハ之ヲ撮寫セシメタル人カ之ヲ複寫シ又ハ發賣スルノ權利ヲ有シ寫眞師ハ何等ノ權利ヲ有セサルナリ此規定ハ著作權法ノ原則ニ反スト雖モ公益ノ必要ヨリシテ斯ル規定ヲ設クルニ至リシ

ナラン然レトモ是レ唯寫眞背像ニ付テ然ルノミナラス人物ノ繪畫彫刻ニ付テモ亦同一ナルヘケレハ他ノ取締法規ヲ以テ之ヲ規定スヘキモノニシテ著作權法中ニ之ヲ規定スルハ理論ヨリ言ヘハ正當ニ非ス唯寫眞版權條例第二條第一項ニモ同一ノ規定アリタレハ之ヲ襲踏シタリト云フニ過キサルナラン

(三)　他ノ著作物ニ挿入シタル寫眞ノ著作權ハ其著作物ノ著作者ニ屬スヘシ

著作權法第二十四條ニ曰ク

文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作者ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間內繼續ス

寫眞著作權ト文藝學術ノ著作物ノ著作權トハ其繼續ノ期間ヲ異ニシ普通著作物ノ著作權ノ期間ハ其著作者ノ生存間及ヒ死後三十年繼續スルニ反シ寫眞ノ著作權ハ其發行ノ時ヨリ十年ニシテ消滅ス隨テ普通著作物ノ中ニ挿入シタル寫眞ノ著作權ハ其著作物ノ著作權ノ猶ホ存スルニ拘ハラス消滅スルコトト爲リ其以後ニ於テハ其寫眞ハ自由ニ他人ニ複寫セラレ爲メニ原著作物ノ價格ヲ損スルニ至ル例ヘハ歐米案內記中ニ歐米ノ都市ノ寫眞ヲ挿入シタル場合ニ於テ本條ノ如キ規定ナキトキハ其寫眞ノ著作權ハ發行ノ時ヨリ十年ニシテ消滅スルヲ以テ十年以後ニ於テハ歐米都市ノ寫眞ハ他人ノ爲メニ自由ニ複寫セラルルニ至リ爲メニ歐米案內記ノ販路ヲ妨ケラレ其著作者ニ少カラサル損害ヲ與フルニ至ル是レ本條ノ如ク特ニ文藝學術ノ著作物中ニ挿入スルノ目的ヲ以テ撮寫シタル寫眞ハ其著作物ノ一部ト看做シ其著作權ヲ其著作物ノ著作者ニ屬セシメ原著作物ト同一ノ期間繼續セシムルノ必要アル所以ナリ

(四)　共有著作權者　數人共同シテ一ノ著作ヲ爲スコトアリ之ヲ合著作ト謂フ即チ合著作ハ數人ノ共同勞力ノ結果ナリ而シテ合著作ヲ爲スニ或ハ著作ノ部分ヲ分タスシテ之ヲ爲スモノアリ或ハ其分擔部分ヲ定メテ之ヲ爲スモノアリ例ヘハ甲乙丙ノ三人カ民法註釋ヲ著ハスニ當リ其受持部分ヲ定メス三人カ討論研究シタル結果ヲ筆ニスルカ如キ場合ハ前者ニ屬スル之ニ反シ甲ハ

總則ヲ受持チ乙ハ債權ノ部丙ハ物權編ト云フ如ク各其分擔部分ヲ定メタ之ヲ著ハス場合ノ如キハ後者ニ屬ス此二者ハ其方法ハ異ナレリト雖モ合著作タルハ一ナリ然レトモ若シ初ヨリ共同シテ著作スルノ意思ナク甲ノ書キタル債權ノ部ト乙ノ書キタル物權ノ部トヲ後ニ合卷シテ一書ト爲スカ如キハ合著作ニ非ス隨テ此場合ニハ其著作權ハ各自別別ニシテ債權編ノ著作權ハ甲ニ屬シ物權編ノ著作權ハ乙ニ屬ス

合著作物ノ場合ニハ其著作物ハ唯一タルヲ以テ其著作權モ亦一タリ唯權利ノ主體數人アルノミ合著作ト云フ以上ハ其內部ノ關係如何ニ拘ハラス第三者ニ對シテ其著作權ハ共同著作者ノ共有ニ屬スルモノナリ故ニ縱令共同著作者間ニ在リテハ其分擔部分ヲ定メ隨テ其持分ヲ特定シタルコトアルモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

合著作タルヤ否ヤヲ定ムルノ實用ハ(第一)期間ノ計算ニ在リ、單獨ノ著作物ナレハ其著作權ノ期間ハ著作者ノ終身及ヒ死後三十年ニシテ消滅スルモ合著作物ニ在リテハ其著作權ハ合著作者中最後ニ死亡シタル者ノ死後三十年マ

テ繼續ス(第三條第二項)(第二)義務共同ナリ、合著作ハ第三者ニ對シテハ總テ合同協議シテ著作セルモノト看做サルルヲ以テ其著作ヨリ生スル義務モ共同著作者連帶シテ之ヲ負ハサルヘカラス例ヘハ其著作物ノ或部分ニ僞作ノアリタル場合ニハ損害賠償ノ責任ハ共同著作者連帶シテ之ヲ負ハサルヘカラス甲ハ其部分ハ乙ノ筆ニ成リタルモノナレハ自己ノ與リ知ル所ニ非ストノ辭柄ヲ以テ之ヲ免ルルコトヲ得ス蓋シ合著作ハ共同著作者互ニ協議研究シテ成リタルモノト看做スヲ以テ法律上同一人ノ手ニ成リタルモノト看做サルヘカラス故ニ縱令實際甲ハ乙ノ筆ヲ執リタル部分ニ干與セスト雖モ第三者ニ對シテ其責ヲ免ルルコトヲ得ス(第三)權利ノ行使モ共同シテ之ヲ爲サルヘカラス共有權ハ法ニ特例ナキ以上ハ共有權者共同一致ヲ以テ之ヲ行使スルヲ原則トス只著作權法ニ於テハ僞作ニ對シ訴訟ヲ爲スニハ共同ヲ以テスルヲ要セス各自隨意ニ之ヲ爲スヲトヲ得(第三四條)蓋シ斯ル規定ナキニ於テハ共同著作者中一人ノ不同意者アルトキハ遂ニ僞作ニ對スル訴訟ヲ起スコト能ハスシテ空シク權利ノ侵害ヲ默認スルノ已ムヲ得サルニ至レハナリ』

此ノ如ク合著作物ニ對スル權利ノ行使ハ共同著作者ノ合意ニ依ラサルヘカラサルカ故ニ若シ其間ニ協議調ハサルトキハ其權利ヲ行使スルコトヲ得ス例ヘハ共同著作者ノ一人カ其著作物ノ發行又ハ興行ヲ拒ムトキハ其著作物ハ永久ニ發行又ハ興行スルコトヲ得ス隨テ一人ノ異議アルカ爲メニ折角著作シタルモノヲ空シク筐底ニ埋沒セシメサルヲ得サルノ結果ヲ生ス此ノ如キハ單ニ著作者ノ迷惑タルノミナラス公益上有害ナルヲ以テ斯ル場合ニハ異議者ヲ强制シテ發行又ハ興行セシムルノ必要アリ是レ著作權法第十三條第二項、第三項ノ規定アル所以ナリ曰ク

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ其ノ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス」

抑モ共同著作者ハ其著作物ニ對シテ平等ノ權利ヲ有スルヲ以テ其著作物ノ發行又ハ興行ニ關シテハ合意ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス例ヘハ如何ナル方法ニ依リテ之ヲ發行又ハ興行スヘキヤ、如何ナル人ニ發行ヲ爲サシムヘキヤ、如何ナル人ニ興行ヲ許スヘキヤ、如何ナル時期ニ發行又ハ興行スヘキヤ等總テ共同著作者ノ共同一致ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス而シテ總テノ著作者間ニ意思合致スルトキハ何等ノ問題起ラサルモ若シ其中ニ異議者アリテ發行又ハ興行ニ關シ意見ノ一致セサルトキハ結局發行又ハ興行スルコトヲ得サルカ故ニ之ヲ强制シテ發行又ハ興行セシムルノ必要アリ第十三條第二項ニ依レハ各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合即チ例ヘハ甲乙二人ノ著作シタル部分ヲ分別シ能ハサル場合ニ於テハ其發行又ハ興行ヲ拒ム者ニ賠償シテ其人ノ部分ニ屬スル著作權ヲ取得スルコトヲ得換言スレハ其發行又ハ興行ヲ拒ム者ハ賠償ノ提供ヲ受クルトキハ最早其發行又ハ興行ニ關シ何等ノ容喙ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ是レ唯當事者間ニ特約ナキ場合ニ限ルモノニシテ特約アリタルトキハ其契約ニ從ハサルヘカラス例ヘハ合同著作ヲ爲スニ際シ共同一致ヲ

以テスルニ非サレハ發行又ハ興行セサルコトヲ約シタルトキハ其契約ニ從ハサルヘカラサルカ如シ

各著作者ノ分擔シタル部分ノ明瞭ナル場合ニハ各其部分ヲ分離スルコトヲ得ルヲ以テ著作者ノ中ニ發行又ハ興行ヲ肯セサル者アルトキハ其部分ヲ取除キ他ノ部分ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得換言スレハ異議者ハ合著作タルヲ理由トシテ著作物ノ分離ヲ拒ムコトヲ得ス但此場合ニ於テモ契約ヲ以テ分離シテ發行又ハ興行セサルコトヲ約シタルトキハ其契約ニ從フヘキモノトス

前述第二項ノ場合ニ於テ合同著作者中異議者ノ意思ニ反シテ發行又ハ興行ヲ強制スルハ公益上已ムヲ得サルニ出ツト雖モ異議者タル著作者ノ迷惑タルヤ勿論ナリ故ニ其者ニ於テ著作物ニ自己ノ氏名ヲ顯ハスヲ欲セサルトキハ其意思ヲ重セサルヘカラス隨テ第十三條末項ニ於テ發行又ハ興行ヲ拒ミタル者ノ意思ニ反シテ其氏名ヲ著作物ニ掲ケサルコトヲ規定シタリ是レ公益上ノ理由ニ依リ強制シテ著作物ヲ公ニスルノ途ヲ開クト同時ニ所謂著作者ノ思想權（ドロアトモラール）ヲ尊重シタルナリ

第三項ノ場合ニハ此問題起ラス何トナレハ此場合ニハ發行又ハ興行ヲ拒ム者ノ著作物ヲ發行又ハ興行スルニ非スシテ只他ノ著作者ノ分擔シタル部分ヲ分離シテ發行又ハ興行スルニ過キサレハナリ

第八章　著作權ノ內容

著作權トハ著作權法ニ依リテ著作者ノ有スル權利ナリ故ニ著作者ノ權利ヲ明カニスルトキハ著作權ノ內容ヲ知ルコトヲ得ヘシ著作權法第一條ニ依レハ「文書演述圖畫彫刻模型寫眞其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス」トアリ故ニ著作者ノ權利即チ著作權ナルモノハ學藝美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ複製スルノ專權ナリ隨テ此定義ヲ解剖スルトキハ著作權ハ如何ナル內容ヲ有スル權利ナルカヲ明カニスルコトヲ得ヘシ

複製トハ前章ニ於テ述ヘタル如ク一ノ著作物ヲ摸製スルノ謂ニシテ同一ノ形體ヲ以テスルト別種ノ形體ヲ以テスルト將タ又其方法ノ如何ナルトヲ問ハヌ

ルナリ之ヲ要スルニ原著作物ト同一ノ思想ヲ表示スルヲ稱シテ著作物ノ複製ト謂フ故ニ著作權ト云ヘハ複製權ノ謂ニシテ複製ノ專權ヲ有スル者即チ著作權者ナリ隨テ此專權ヲ侵害スルハ即チ著作權ノ侵害ナリ

此ノ如ク著作權ハ自己ノ著作物ヲ自己ノ意思ニ隨ヒテ複製スル權利ナルヲ以テ之ヲ分析スルトキハ二面ニ分ツコトヲ得(一)著作物ヲ發行シテ利益ヲ受クル權利(二)自己ノ思想ヲ維持スル權利是ナリ佛國著作法學者ハ著作權ニ二面ノ權利(金錢的權利 droit pécuniaires 無形的權利 droit moral)アルコトヲ主唱スルハ此趣旨ニ外ナラス

(一)　著作物ヲ發行シテ利益ヲ受クル權利　著作權ハ著作者カ他人ヲ排シテ自己ノ著作物ヲ複製スル權利ナルヲ以テ之ヲ發行シテ發賣頒布スル權モ著作者ノ專有ニ屬ス故ニ此點ニ於テハ著作權ハ著作物ノ專賣權ナリ而シテ此權利ハ收益ヲ目的トスルモノニシテ著作者ノ資產ノ一部ヲ成スモノナレハ普通ノ財產權ナリ隨テ此權利ハ相續、賣買、讓與、擔保ノ目的物ト爲ルヘキモノニシテ所有權ト少シモ異ナル所ナシ

著作物ノ發行ヲ以テ複製權以外ノ權利ト解スル學者アリ又歐米諸國ノ著作權法中ニ例ヘハ米國著作權法、墺太利匈牙利著作權法等ニ於テハ著作者ハ著作物ヲ複製シ及ヒ發行スルノ權利ヲ有スト規定セル立法例アリ予ハ此見解ハ誤レリト信ス否少クモ重複ノ規定ナリト信ス蓋シ複製スル權利ヲ有スト云フ以上ハ之ヲ發行スルノ權利ハ當然其中ニ包含セラルルモノナリ何トナレハ發行ニハ必ス複製ヲ要シ複製ナクシテ發行アルヘキ筈ナケレハナリ論者或ハ發行ノ伴ハサル複製アルト同時ニ複製ヲ要セサル發行アルコトヲ主張シ出版ニ依ル發行、公ノ演奏ニ依ル發行、公開展覽ニ依ル發行ヲ例示スト雖モ予ハ發行ノ伴ハサル複製アルコトハ之ヲ認ムルモ複製ヲ要セサル發行ハ決シテ之ナシト信ス彼ノ出版ニ依ル發行、公ノ演奏ニ依ル發行ノ如キハ複製アリテ而シテ發行スルモノニシテ必スシモ之ヲ複製以外ノ發行トシテ論スルノ必要ナシ唯公開展覽ニ依ル發行ハ複製ヲ要セサル發行トシテ看ルヘキモノノ如シト雖モ公開展覽ノ發行ナリヤ否ヤニ關シテハ議論ノ存スル所ニシテ「ベルヌ」條約ノ解釋トシテハ公開展覽ハ條約ニ所謂發行(publication)ニ非

スト云フコトニ決定セリ(千八百九十六年「ベルヌ」條約解釋的宣言書第三)之ヲ要スルニ予ハ著作物ノ複製ト云ヘハ當然發行モ包含ストノ說ヲ採ルモノニシテ複製權以外ニ發行權ナルモノヲ認ムル必要ナシト信スルナリ我著作權法ニ於テ歐洲多數ノ立法例ニ倣ヒ著作者ノ權利ノ中ニ發行ノ權ヲ明言セサリシハ蓋シ此趣旨ニ外ナラサルヘシ

(二)　思想維持權　著作者ハ著作物ヲ發行シテ利益ヲ受クル權利ヲ有スルノミナラス其著作物ノ形體及ヒ內容即チ著作物ニ依リテ表示セラレタル自己ノ思想ヲ維持シ又ハ變更スルノ權利ヲ有ス之ヲ思想維持權ト稱ス蓋シ著作物ナルモノハ著作者ノ思想ノ外部ニ顯ハレタルモノニシテ其思想ノ主體ハ著作者以外ニ在ルヘキモノニ非サレハ著作者自身ニ非サレハ之ヲ支配スルコトヲ得ス故ニ著作物ノ形體內容ヲ維持シ變更スルハ獨リ著作者ノ有スル權利ニシテ他人カ之ヲ行フトキハ著作權ノ侵害ト爲ルナリ著作權法第十八條ニ於テモ此趣旨ヲ明言シ世間一般ノ人ハ勿論著作權ノ承繼者ト雖モ著作者ノ同意アルニ非サレハ其著作者ノ氏名,稱號ヲ變更シ若クハ其題號ヲ改メ又ハ其著作物ヲ變更スルコトヲ得スト規定セリ抑モ著作物ナルモノハ前述シタル如ク著作者ノ精神的果實ニシテ著作者ノ思想カ文書繪畫等ト爲リテ外部ニ形ヲ現ハシタルモノナレハ著作者自身ニ非サレハ一字一點ト雖モ之ヲ增減變更スルコトヲ得ス若シ他人カ妄ニ之ヲ變更スルトキハ著作者ノ意ヲ害シ著作者ノ思想ヲ傷クルニ至ル故ニ著作者ノ同意ナケレハ之ヲ改竄變更スルコトヲ得スト爲スハ是レ實ニ著作者ヲ保護スルニ於テ缺クヘカラサルコトナリ

著作權ノ一方面タル此權利ハ決シテ收益ヲ目的トスル財產的權利ニ非ス故ニ著作物ヲ發行シテ利益ヲ專有スル權利トハ異ナリテ財產權ニ非ス彼ノ名譽權生命權等ト同シク人格的性質ノ權利ナリ著作者ニ專屬スル權利ニシテ著作者ト離ルヘカラサルノ權利ナリ故ニ予ハ此方面ノ權利ヲ思想維持權ト稱シ人格權ナリト斷定ス而シテ著作權ト云ヘハ此權利ト(一)ニ於テ述ヘタル發行ニ依リテ利益ヲ受クル權利トヲ包含スルモノナレハ予ハ著作權ハ財產權ト人格權トノ混成權利ナリト論定スルナリ

此ノ如ク著作權ノ內容ヲ分析スルトキハ普通財產權ト思想維持權トニ分ツコトヲ得而シテ文書圖畫ノ著作物ニ就キ其內容ヲ吟味スルトキハ左ノ諸種ノ權利ヲ包含ス

（第一）出版權

學藝的著作物即チ文書圖畫ハ印刷其他器械的化學的方法ニ依リテ出版シ之ヲ發賣頒布スルコトヲ得而シテ其權利ハ著作者ノ專有タル所ノモノナルカ故ニ著作物出版ノ方法體裁時期部數ヲ定ムルハ著作者ノ權利ニシテ又其發行後ト雖モ其出版ノ實況ヲ監督シ何時ニテモ其出版ヲ止ムルコトヲ得故ニ若シ著作者ノ同意ナクシテ之ヲ出版シ又ハ出版ノ方法體裁時期部數等ニ關シ著作者ノ意思ニ反シ之ヲ爲シタルトキハ著作權ノ侵害ト爲ル但所謂發行契約(Verlagsvertrag)ニ由リテ發行者ト著作者トノ間ニ特別ノ約定ヲ爲シタルトキハ其契約ニ從フヘキハ勿論ナリ

（第二）興行權

著作權法第一條第二項ニハ「文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス」トアリ茲ニ興行ト云フハ佛語ノ Représentation ou exécution publique 獨語ノ öffentliche ausführung ニ該當スル語ニシテ公衆ノ前ニ於テ演劇脚本ヲ演シ又ハ樂譜ヲ奏スルヲ云フ抑モ演劇脚本又ハ樂譜ノ如キハ之ヲ演奏スルヲ以テ其主タル目的ト爲スモノニシテ此等ノ著作物ハ出版ニ依リテ利益ヲ得ルヨリハ寧ロ興行ニ依リテ利益ヲ得ルコト多シトス故ニ舊脚本樂譜條例ニ於テモ演劇脚本及樂譜ノ版權ヲ有スル者ハ興行權ヲ併有スルコトヲ得ト規定シ又歐米ノ著作權法ニ於テモ Oeuvre dramatique et musicale ハ興行權ヲ有スト爲ス我著作權法ニ於テモ此等ノ規定ニ倣ヒ脚本及ヒ樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含スト規定セリ

著作權法ニ於テハ興行ノ定義ヲ掲ケサルカ故ニ興行ノ何タルヤハ解釋ヲ待タサルヘカラス舊脚本樂譜條例ニ於テハ之ヲ註釋シテ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ公ニ演スルノ權利ト云ヘリ故ニ同條例ノ下ニ於テハ利益ノ爲メニスルコトヲ以テ興行權ノ一條件ト爲セリ然レトモ利益ノ爲メニスルコトハ興行權ノ一要件ナルヤ否ヤハ頗ル疑ハシキ所ニシテ佛語ノ représentation, exécution 獨

語ノ ausführung ノ意義ニ於テハ必スシモ利益ノ爲メニスルコトヲ必要トセス故ニ現行著作權法ノ如ク興行權ニ何等ノ定義ヲ掲ケサル場合ニハ利益ノ爲メニスルコトヲ以テ興行權ノ要件ニ非スト解スル方正當ナランカ隨テ劇場又ハ寄席ニ於テ入場料ヲ受ケテ演奏スル場合ハ勿論縱令入場料ヲ取ラストモ公衆ヲ集メテ演奏スルトキハ興行シタルモノト謂ハサルヘカラス但自己ノ娛樂又ハ研究ノ爲メニ演奏スルカ如キハ興行ニ非サルヤ勿論ナリ

玆ニ特ニ讀者ノ注意ヲ請ヒタキコトハ興行ニ關スル予ノ解釋ノ異ナリタルコトナリ予カ先年著ハシタル著作權法要義ニ於テハ興行ニハ利益ノ爲メニスルコトト公衆ノ前ニ演奏スルコトノ二條件ヲ要スト解說セリ(著作權法要義一八頁蓋シ前述シタル如ク舊脚本樂譜條例ニハ興行權ヲ定義シテ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權利ト云ヒタルヲ以テ新著作權法ニ於テモ此意義ニ解釋スルヲ正當ナリト信シタリシナリ然レトモ單純ニ解釋スレハ興行ナル文字ノ中ニ利益ノ爲メニスルコトヲ包含セサルヲ以テ興行權ニ關シ何等定義ヲ掲ケサル法律ニ於テハ利益ノ爲メニスルコトヲ以テ興行ノ要件ト爲

法律カ公證人ヲシテ職務ノ執行ヨリ除斥セシムル場合左ノ如シ

(イ)自己又ハ親族ノ爲メニ證書ヲ作成スルコトヲ得ス

(ロ)自己ノ親族カ他人ノ代理人タル場合ニ於テハ其本人タル他人ノ爲メニモ證書ヲ作ルコトヲ得ス換言スレハ一公證人ノ親族ハ其公證人カ作成スル證書ニ關シ當事者タルモノノ代理人タルコトヲ得サルナリ

(ハ)囑託者ノ爲メ訴訟代理人トナリタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス

玆ニ一言注意ス可キハ公證人規則第三十七條ニ「公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代理人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタルトキ」トアリ本法發布當時ノ代言人トハ即チ現時ノ辯護士ナルカ故ニ囑託人ノ爲メ辯護士トナル者トハ殆ント了解シ得可カラス特ニ辯護士ハ特ニ命セラレタル職務ヲ除ク外報酬アル公務ヲ兼スルコト能ハサルカ故ニ公證人ニシテ同時ニ辯護士タルモノナカル可キ理ナリ之ヲ告訴告發代理人若シクハ辯護人ナリト解センカ公證人ハ民事ニ關スル證書ヲ作成シ刑事上ノ職權ナキモノナレハ其

囑託者トノ刑事上ノ關係如何ニ拘ハラズ其職務ニ影響スル所ナキ而シテ公證人ノ親族カ囑託者ヲシテ其職務執行ヲ除斥セラルル可キコトハ前項ニ掲ケタル所ニシテ又他人ノ雇人タルカ如キハ其品位ニ於テ避ク可キ、又辯護士ヲ兼任スルハ許ス可カラサル所ナルカ故ニ本項ヲ他人ノ訴訟代理人ニアル場合トハ以上ノ二者ニアル實格以外ニ於テ訴訟代理人ニアルトキヲ意義スルモノトス民事訴訟法ニ於テハ辯護士、親族又ハ雇人ナキ場合ニアラズ他人ノ訴訟能力者ニ訴訟代理ヲ許スカ故ニ公證人カ適法ニ訴訟代理人タリ得ルモ前述ノ場合ニ限ル可キナリ而シテ公證人ハ他人ノ補佐人トナリ又ハナリタルコトハ除斥ノ原因ヲ爲スモノニ非ス何トナレハ民事訴訟法ハ訴訟代理人ト補佐人トヲ區別シ前者ハ反新、主參加、故障假差押若クハ假處分又ハ强制執行ニ因リ生スル訴訟行爲ヲ併セ訴訟ニ關スル總テノ訴訟行爲ヲ爲シ相手方ヨリ辯濟スル費用領收ノ權限ヲモ有スルニ反シ後者ハ本人タル訴訟當事者ト共ニ法廷ニ出頭シ其權限モ唯タ口頭辯論ニ於テ權利ノ伸張又ハ防禦ノ爲メニ當事者ヲ輔助スルニ過キス此ノ如ク二者ハ其根底ニ於テ全ク異リ從テ補佐人ハ訴訟ニ付キ利害關係甚タ薄キカ故ニ之ヲ以テ除斥ノ原因ト爲スハ至當ニ非サル可シ若シ夫レ告訴告發ニ關スル代理人ニ至ツテハ刑事上ノ關係ニ止マリ且ツ訴訟代理人ト言フ可カラサルカ故ニ同シク除斥ノ原因タラサルモノトス

(二)自己、親族、立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ其作成ニ係ル證書中ニ記載ス可カラス

列記ノ者ノ爲メ利益アル條件ハ事實ニ於テ成立スルコトヲ妨ケス然レトモ之ヲ自己作成ノ證書中ニ記入スルヲ得ス蓋シ偏頗ヲ豫防スル爲メニシテ此ノ如キ利益ナル條件ニ付キテハ除斥セラルルモノトス

以上ノ場合ニ於テ公證人ハ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ニ違反シテ證書ヲ作成シタルトキハ其證書ハ違法ノモノナルカ故ニ公正人效ヲ發生セス而シテ私署證書トシテノ效力ニ付テハ或ハ當初公正證書トシテ作成セラレタルモノカ違法ナル爲メニ變シテ私署證書タリ得ルモノニ非サルカ如キ考ヘラルルモ本來ハ公證人モ亦一私人タル資格ヲ有シ且ツ公正證書モ遺言ノ如ク要式的ノモ

ノニ過キス公正證書タルト私署證書タルト其實質ニ於テハ何等ノ差等アル可キ道理ナケレハ苟クモ其內容ニ於テ適法ナルトキハ祕密證書ニ依ル遺言カ其方式ヲ缺クモ自筆證書ニ依ル方式ヲ具備スルニ於テハ其效力アルカ如タ尙ホ私署證書トシテ有效ナル可キヲ信ス之レ法律カ何等ノ效力ナシト規定セス單ニ公正ノ效ナシト宣言シタル所以ナル可シ

第八章　抗告

公證人ノ職務上ノ行爲ニ關シ之ヲ不當ナリトスル者ハ其救濟ヲ求ムル爲メ管轄地方裁判所ニ抗告スルコトヲ得公證人規則ハ廣ク公證人ノ職務執行上ニ關シテ抗告スルコトヲ許スカ故ニ公證人ノ不當ナル職務執行ヨリ直接ノ影響ヲ受ケタリト思料スルモノ若シクハ正當ナル理由ナクシテ委囑ヲ拒絕セラレタリト思料スルモノノ如キハ總テ抗告スルコトヲ得即チ抗告ハ不服者カ因ツテ以テ公證人ノ不當ナル職務ノ執行ヲ匡正セシムル方法ナリト云フヲ得可シ抗告ハ抗告ヲ爲ス者ヨリ當該公證人ノ處分並ニ之ニ對スル不服ノ程度及ヒ其

理由等ヲ記載シタル抗告狀ヲ直チニ當該公證人ニ差出シテ之ヲ爲シ若シ其場合ニ於テ公證人カ法定ノ期間內ニ其抗告狀ヲ管轄地方裁判所ニ送致セサリシトキ又ハ事件ノ性質上急速ヲ要スル場合ニアツテハ直チニ抗告狀ヲ管轄地方裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スモノトス抗告ハ處分ヲ停止スル效力アリ即チ公證人ハ自己カ抗告狀ヲ受理シタルト管轄裁判所カ之ヲ受理シタルトヲ問ハス苟クモ其職務ノ執行ニ關シ抗告アリタルトキハ其處分ヲ當時ノ程度ニ於テ停止セサル可カラス

公證人カ直接ニ抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ起算シ三日內ニ該抗告ニ對スル意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫ヲ添附シ抗告ヲ管轄地方裁判所ニ送致セサル可カラス而シテ抗告ニ因リ再度ノ考案ニ基キ之ヲ理由アリト思料スルトキト雖モ民事訴訟法ニ於ケルカ如キ規定ナキヲ以テ不服ノ點ハ裁判所ノ判定ニ依ルノ外之ヲ更正スルヲ得サルモノトス之レ公正證書ハ嚴正ナル可キモノニシテ一旦作成シタル後ハ公證人自身ト雖モ之ヲ追加變更スルコトヲ得サルモノナレハナリ

抗告ハ書面上ノ審理ニ依リ之ヲ判定ス故ニ管轄地方裁判所ハ若シ直接ニ抗告者ヨリ抗告狀ヲ受理シタルトキハ公證人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ且ツ關係書類ヲ請求シ又必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ答辯書ヲ提出セシムルコトヲ得可ク抗告書意見書等ニ基キテ之ヲ判斷スルモノトス此ノ如クニシテ當該地方裁判所カ其受理シタル抗告ニ付キ判定ヲ爲シタルトキハ其判定書ヲ管轄區裁判所ニ送致シ之ヲ抗告者及當該公證人ニ送付セシム可シ而シテ當該裁判所ニ於テ抗告ヲ理由ナシト判定シタルトキハ公證人ノ處分ニ何等ノ影響ヲモ與ヘサルハ論ヲ俟タス之ニ依リ一旦停止サレタル公證人ノ處分ハ更ニ進行ス可キモノトス之ニ反シ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ公證人ハ其判定ノ旨趣ニ從ヒ其處分ヲ更正スルノ義務アリ

始審裁判所ノ判定ニ對シテハ其判定ノ結果自己ノ主張ヲ貫徹シタルモノハ勿論假令其結果ニ不服アル者ト雖モ更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス故ニ始審裁判所ノ判定ハ公證人ノ處分ニ對スル最後ノ判斷タルモノトス

第二編　公證人タル資格ノ得喪

第一章　公證人タル資格

公證人規則ハ公證人タル可キモノノ資格ヲ規定セリ故ニ公證人ノ職務ヲ行フニハ先ツ其法定ノ資格ヲ具備スルコトヲ要シ更ニ法定ノ手續ニ因リ任命セラレタル可カラス換言スレハ公證人トシテ行動スルニハ法定ノ資格ヲ有シ任命ノ形式ヲ經サル可カラス

左記ノ條件ヲ具備スルモノハ公證人タルコトヲ出願スルヲ得可シ

第一　年齡(Age)

滿二十五年以上ナルコトヲ要ス此條件ハ絶對的ナルカ故ニ假令滿二十五年ニ僅僅數ヶ月ヲ缺クトキハ他ノ條件ニ於テ良好ナルモノアリトモ到底公證人タルコト能ハサルナリ然レトモ滿二十五年以上ナル可キハ就職ノミニ關スル條件ナルヲ以テ受驗ニハ全タ影響ヲ及ホササルモノトス

事實上ノ年齡カ身分登記上ノモノト符合セサルトキハ何レニ依ル可キカ戸籍

法カ身分登記ニ付キ嚴密ナル手續ヲ規定シ既ニ登記シタル事項ニ就テハ强ヒテ抹消又ハ變更ヲ許サス之ニ形式的ノ效力ヲ認ムル點ヨリ觀察スルトキハ假令登記シタル出生年月カ事實上ノモノト異ル場合ニ於テモ其登記ノ變更手續ヲ了セサル間ハ一ニ登記ニ依リテ年齡ヲ定ム可キ精神ナルヲ知ル可シ從テ案兒ニ付テモ事實上ノ年齡ハ措テ問ハス登記シタル推定年月ニ因リテ計算ス可キモノトス故ニ法定年齡以上ナリヤ否ヤハ全ク身分登記簿若シクハ之ニ兼用スル戸籍簿ノ記載ニ因リテ決定ス可キモノナリ若シ過失ニ由リ法定年齡未滿ノモノカ就職シ後ニ其誤謬ヲ發見シタルトキハ其職務及二十五歲未滿ノトキニ作成シタル證書ハ如何ニ之ヲ取扱フ可キカ此點ニ關シ二箇ノ說アリ一ハ年齡ハ絕對的條件ニシテ之ヲ缺クトキハ全ク公證人タルコトヲ得サルカ故ニ殆ント就職ノ基礎ヲ爲スモノナリ從テ其基礎ニシテ不法ナラハ公證人ノ就職ハ其始メニ遡ッテ無效ニシテ公正證書モ亦公證人タラサルモノカ作成シタルモノトナルヲ以テ公正ノ效ヲ有セスト云フニアリ他ノ一說ハ佛國判例ノ認ムル所ニシテ假令年齡ノ點ニ付テ不法アルモ既ニ他ノ條件ヲ具備シテ任命ノ手續ヲ了シタル以上ハ法定年齡ニ達スルニ於テ此缺陷ヲ補充スルコトトナルヲ以テ爾後適法ナル就職アリタリト爲スヲ得可シ若シ其作成ニ係ハル公正證書ヲ無效ナリトセハ其影響極メテ大ニシテ人民ノ損害亦少ナカラス殊ニ任命ハ明示ノ取消ナクシテ失效セス從テ其當時ニ在ッテハ形式上適法ナル公證人カ作成セタルモノナルヲ以テ公正ノ效ヲ持續ス可キヤ疑ヲ容レスト余輩ハ便宜主義ヨリ後說ニ贊同スルモノナリ然レトモ詐僞ニ因リテ此ノ如キ結果ヲ生シタルトキハ別ニ論スルノ必要ナシ

第二 才能(capacité)ヲ缺ク公證人ヲ任命スルハ司法大臣ノ職權ナリ故ニ司法大臣ハ其任命ニ先タチ候補者カ果シテ其職務ニ堪ヘルノ才能ヲ有スル乎換言スレハ公證人トシテ相當ナル專門的知識ヲ有スル乎ヲ其狀態ニ察シ以テ任命ニ付テノ意見ヲ定ムサル可カラス然ルニ此才能ヲ試ムルニハ試驗ヲ行ヒ其成績ニ鑑ミルカ最モ良ノ方法トスルトカ故ニ原則トシテ候補者ニ對シ試驗ヲ課スルモノトス之ヲ定式試驗ト云フ從テ定式試驗ニ及第シ其證書ヲ有スルモノハ公證人タ

ヲ得ルオ者ニ対シテハ其ノ試験ヲ免ス

第七条　公証人ノ定員ハ司法大臣ノ専権ニ属シ受験ヲ希望スルモノニ対シテハ試験開始ヲ許可スルコトヲ得ス唯タ司法大臣ニ於テ試験ヲ執行セシメントスルトキハ其試験開始ノ期日ヨリ少タトモ三箇月前ニ其場所及期日ヲ定メ之ヲ告示ス可キモノトス故ニ此場合ニ於テハ左ノ書式ニ従ヒ願書及履歴書ヲ作成シ本籍所在地ノ區長ノ證明ヲ経テ試験期日ノ告示アリタルトキヨリ期日ノ一箇月前迄ノ期間内ニ試験ヲ執行スル控訴院又ハ地方裁判所ニ之ヲ差出サヽル可カラス

（書式一）

公證人試験願用紙美濃紙

族籍　戸主嗣子又ハ二男三男兄弟ノ別

氏名

年齢

私儀公證人試験相受度此段奉願候也

現住所

年　月　日

氏名　印

某控訴院長又ハ某地方裁判所長）殿

前書ノ通族籍年齢等相違無之候也

年　月　日

本籍地區長　印

（書式二）

履歴書用紙美濃紙

族籍　戸主嗣子又ハ二男三男兄弟ノ別

氏名

一何年何月ヨリ何年何月迄（府縣）何某ニ就キ又ハ公私何學校何熟ニ於テ何

一學修業[illegible]

一何年何月何何職業仕官進退賞罰等ニ關スル一切ノ件[illegible]

一公證人規則第二十條ノ各項ニ相觸候義一切無之候

年　月　日　氏　名印

前書ノ通相違無之候也

年　月　日　本籍地區長　印

試驗委員ハ司法大臣カ臨時ニ控訴院若シクハ地方裁判所ノ判事中ヨリ二名同檢事中ヨリ一名ヲ選任シ此ノ如クニシテ組織セラレタル試驗委員ハ公證人規則民法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法其他汎ク公證人ノ職務ニ關連スル法律命令ニ付テ應試者ノ才能ヲ判斷スルモノトス司法大臣カ二以上ノ試驗執行地ヲ指定シタルトキハ各所同時ニ試驗ヲ行ヒ其方法ハ之ヲ筆記及口述ノ二ニ分チ先ツ筆記試驗ヲ執行シ應試者ノ提出シタル答案ニ依リ其能力ヲ調査シタル上其合格不合格ヲ決定シ合格シタルモノニノミ引續キ口述試驗ヲ行ヒ合格セサルモノハ更ニ口述試驗ニ應スルノ權利ナシ而シテ試驗問題答案ノ適否ハ一ニ試驗委員ノ判斷ニ屬シ其他ノモノハ之ニ容喙スルコトヲ許サス又其判斷ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス試驗ノ結果ハ筆記及口述二種ノ總點ニ依リテ決定シ委員ハ公正ヲ維持スル爲メ口述試驗ノ大略及試驗全體ノ結果ヲ記錄ニ記載ス可キ責任アリトス

試驗執行ノ結果其才能公證人タルニ適スルモノト認メラレタルモノ即チ及第シタルモノニハ及第證書ヲ授與ス此證書ニハ試驗委員ノ連署ヲ要ス蓋シ其適任ノ認定ヲ證明スル爲メナリ而シテ試驗ヲ執行シタル控訴院若シクハ地方裁判所ハ試驗及第人名簿ヲ調製シ之ニ及第者ノ住所、族籍、氏名、年齡及及第ノ年月日ヲ登錄セサル可カラス於是試驗終了ス[illegible]試驗終了後試驗委員ハ答案ニ試驗記錄等試驗ニ關スル一切ノ書類ヲ其試驗ヲ行ヒタル地方裁判所若シクハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ地方裁判所ニ於テ試驗ヲ行ヒタルトキハ當該裁判所長ハ送致ノ書類中及第者ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ之ニ意見ヲ附シテ管轄控訴院ニ送致シ控訴院長亦之ヲ査閲シタル上意

見ヲ附シテ司法大臣ニ提出スルモノトス若シ控訴院ニテ試驗ヲ行セタルトキハ前掲ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣ニ提出ス此ノ如キハ試驗ノ嚴正ニ行ハルルヲ監督スル手續ニ過キサルナリ

定式試驗ハ公證人タラントスルモノカ職務ヲ行フニ適當ナル才能ヲ有スルヤ否ヤヲ鑑識スルコトヲ目的トス故ニ他ノ理由ニ依リ其適任ナルコトヲ推知シ得ラルルモノニハ此試驗ヲ課スルコトヲ要セスト爲セリ即チ判事、檢事タリシモノ又ハ法科大學卒業生、辯護士等ノ如キハ單ニ他ノ條件ヲ具備スルコトノミヲ以テ公證人ニ任命セラレ得可キ資格ヲ認メ定式試驗ニ及ハス可キ要件ヲ免除シタリ

第三　行狀(moralité)

公證人ノ職務ハ誠實嚴正ニ執行セラル可キモノナルヲ以テ其行狀カ不良ノ狀態ニアルモノハ到底此ノ如キ人民ノ權義ニ重大ナル影響ヲ有スル職務ヲ託スルニ適セス且ツ前述シタル如ク法律ハ公證人ノ品位ヲ保ツカ爲メニ員數及受持區ヲ制限シ以テ其收入ヲ確保スルノ擧ニ出ラタルカ故ニ公證人タルニハ其品行ノ善良ナルト共ニ其財產ノ整理シタルモノヲ選任セサル可カラス此理由ニテ一方ニ於テハ物的擔保トシテ身元保證金ヲ納付セシムルノ制度ヲ設ケ他方ニ於テハ人的保障トシテ成年者二名以上ヲ保證人トシテ其品行ノ善良ナルコトヲ保證スル證書ヲ其願書提出ノ際ニ添附シテ提出ス可キモノトセリ

然レトモ左記ノモノハ絕對的ニ其品行不良ナル可キヲ推測シ假令如何ナル保證方法ヲ執ルモ到底其性行ニ於テ公證人タル資格ナキモノトシテ之ヲ候補者ヨリ排斥シタリ故ニ其一以上ニ該當スルモノハ他ノ條件ヲ欠缺スルモノノ如ク他日之ヲ回復スルコト能ハサルナリ

第一　剝奪公權者若シクハ停止公權者(刑法第三十一條、第三十二條、第三十三條參照)

第二　盜罪、詐僞罪、賄賂收受罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三　官吏懲戒令ニ依リ免官セラレタル者、禁治產者、破產ノ宣告ヲ受ケ債務ノ弁償ヲ終ヘサル者モ亦以上ノ者ト同シク公證人タル資格ナキモノトシタリ然レトモ此種ノ者ハ主トシテ財產ノ方面

ヨリ觀察シタルモノニシテ債務ノ辨償ヲ終ヘナレハ公證人ノ品位ヲ維持シ難ク身代限ノ處分ヲ受クレハ公權ヲ喪失スルノ結果ヲ受クルヲ以テ失格セシメタルニ過キス故ニ辨濟其他ノ方法ニ基キ復權ヲ申立テ其許可決定ニシテ確定シタルトキハ公證人タルニ妨ナシトスニ國スル限リ限リ限リ

此ノ如キ失格的條件ニ觸レサルモノニシテ公證人タランコトヲ出願シタルトキハ其品行カ果シテ職務ニ適當ナリヤ否ヤヲ審査セサル可カラス佛蘭西法制ニ於テハ此點ニ關シ一局ヲ設ケ先ツ出願人ヨリ身分證書、財產目錄、收入支出表、公私權享有證書、兵役ニ關スル證明書及前科ニ關スル證明書等ヲ提出セシメ然ル後當該官廳カ出願人ノ道德上及財產上ノ狀況ニ付キ嚴密ナル調査ヲ加ヘ調査委員ノ祕密投票ニ依リ之ニ證明書ヲ下付ス可キヤ否ヤヲ議決シ一ニ其證明書ニ依リテ品行ノ方正ヲ證スルモノトス我國ニ於テハ出願人ハ此ノ如キ手數ヲ要セス唯タ二名以上ノ成年者カ其品行方正ナルコトヲ證明スル書面ヲ提出スレハ足レリ然レトモ受願裁判所ノ所長及檢事正ハ此出願人ノ身上ニ付キ失格條件ノ一ニ該當スルモノナリヤ否ヤ或ハ精神ノ中正ヲ得タルモノナリヤ否

雜報

○清國留學生法政速成科ノ新設　本大學ニ於テハ今般下ニ掲記スルカ如キ趣旨ニ由リ清國留學生ノ爲メ特ニ文部大臣ノ認可ヲ經テ新ニ法政速成科ヲ設ケ去月七日午後二時本校新講堂ニ於テ開講式ヲ擧行シタリ當日式場ニ列シタルハ梅總理、富井敎頭ヲ始トシテ板倉、岩田、岡田、岡、小河、掛下、金井、筧、加藤、吉原、中村、山田、山口、松本、松浦、志田、清水、遠藤其他ノ諸講師、校友數十名、留學生三十九名、來賓ニハ波多野司法大臣、柏原同大臣秘書官、高橋職員、課長、清國公使、同公使館員十七名、珍田外務次官、名村貴族院議員、山川帝國大學總長、穗積法科大學學長、中川視學官、福原文部書記官、鳩山早稻田大學校長、代理田中同大學幹事其他無慮二百餘名、參觀人之ニ倍シ殊ニ多數ノ清國人モ來觀セリ定刻ニ至リ梅總理式壇ニ進ミテ開講ノ辭ヲ述ヘラレ次ニ清國公使、波多野司法大臣、清國人曹汝霖氏(日本語ノ祝詞演說アリテ同五時閉會ヲ告ケ別室ニテ一同ニ麥酒等ノ饗應ヲ爲シタリ尙ホ本速成科ハ一期二期ニ分チ通シテ一年間ニ全科ヲ卒ルモノニシテ梅總理ノ如

「ヤ」ハ每週十時間出講セラルル定ナリ今本速成科設置趣意書ヲ左ニ揭ク

清國留學生法政速成科設置趣意書

今清國銳意維新知新學之不可緩。愛遣學生來學我邦。數年以來數以千計。洵盛事也。顧目下之來於我邦者雖多。而修業於法律政治之學者尚少。誠以我邦之官私立學校之授斯學者。其講述皆以邦語。其課程皆須三四年而畢。清國學子之有志於斯者。不得不先從事於本邦語言。從而入專門各學校。綜計前後須得六七年。夫以六七年歲月之久。是非立志堅定者。鮮克見厥成功。即成矣。而其數必又居於最少。是可惜也。夫清國而欲與各國抗衡也。固非釐革其立法行政不爲功。而欲著手於立法行政之釐革。又非先儲人才不爲功。然則養成應用人才。謂非清國今日先務之尤急者乎。本大學有見於此。愛與清國留學生之有志者謀。又得清國公使之贊成。特設法政速成科。授以法律政治經濟必要之學科。以華語通譯教授。俾清國朝野有志之士。歸鍜而來。不習邦語。即可進講專門之學。歸而見諸施行。以扶成清國釐革之事業。夫以清國時勢之盛。需才之亟。有若今日。欲養成多數新人物。舍斯科其奚由哉。昔我邦明治維新之初。亦嘗聘歐美學者。設速成科。以邦語通譯。而教在位者及有志者矣。今日居樞要之位。其出於當年速成科者蓋不尠。然則本大學此速成科之設。其有補於清國變法之前途者。必匪淺鮮也。

明治三十七年四月　　法政大學總理法學博士　梅謙次郎

○「同商品」ノ意義　商標法第十六條第一項ニ「他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同商品ニ使用シタル者云云」トアリ所謂「同商品」トハ商品ノ名稱ニ依リテ判別スヘキカ又ハ其商品ノ名稱如何ニ拘ハラス商品ノ實質ニ依リテ決スヘキモノナルカ大審院ハ後段ノ如ク判決シテ曰ク「商標法第十六條ノ所謂同商品トハ商品ノ名稱ノ同一ナルモノヲ指シタルモノニアラスシテ商品ノ實質上同一種類ニ屬スルモノノ謂ヒナリト解スルヲ當然トス」ト（大審院明治三十七年（れ）第六五號商標法違犯並附帶私訴事件明治三十七年三月二十五日第二刑事部宣告）

○商標權ト名譽權　民法ノ規定ニ依レハ不法行爲ニ因ル損害ノ賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ其額ヲ定ムルモノトシ（民法第七二二條）他人ノ名譽ヲ毀損シタル場合ニ限リ他ノ方法ニ由ラシムルコトヲ得ルモノトス（同第七二三條）今故意ヲ以テ他人ノ商標權ヲ侵害シタルトキハ裁判所ハ之ニ金錢以

外ノ賠償方法ヲ命スルコトヲ得ルカ換言スレハ商標權ノ侵害ハ名譽權ノ毀損ト爲ルヤ否ヤ大審院ハ曰ク「商標權ハ一種ノ財產權ニシテ其侵害ニ因テ生スル損害ハ財產權上ノ損害ナルヲ普通トスルモ其侵害ニ關スル行爲カ被害者ノ品格ヲ貶スヘキ結果ヲ來シ其世間ニ於ケル信用ヲ害スルモノナルトキハ其名譽上ノ損害ヲ生スルコトナシトセス蓋シ名譽トハ社會ニ於ケル各人ノ品格ヲ謂ヒ其毀損トハ人ノ品位ヲ下ケ信用ヲ溝フシ社交上擯斥ヲ受クル等總テ人カ社會ニ於テ有スル品評ヲ貶スルノ謂ニシテ通常人ノ性行若クハ職業等ニ付惡評ヲ公布スルニ原因スルモノナリ然ルニ原院ハ被告カ被上告人ノ登錄商標ニ類似ノ商標ヲ製造シ之ヲ同種ノ商品ニ使用シ廣ク世間ニ販賣シタル所爲ハ被上告人ノ營業上ノ信用ヲ失墜スヘキ結果ヲ來シ其名譽ヲ毀損シタルモノトシテ結局ノ判決ヲ爲シタルモ他人カ被上告人ノ登錄商標ニ類似ノ商標ヲ同種ノ商品ニ使用シ廣ク世間ニ販賣シタレハトテ之レカ爲メニ財產上ノ損害ヲ受クルコトアルヘキモ其品質劣ラサル限リハ被上告人ノ品格ヲ貶シ其世間ヨリ受クヘキ信用ヲ害セラルル謂レナシ」（同上）

法學志林

第五十六號　每月一回十五日發行
五月十五日發行

定價一冊拾貳錢　郵稅壹錢
郵稅共壹圓貳拾錢
十冊前金

●校友學生校外生ニ限リ特價一冊拾錢郵稅壹錢十冊前金郵稅共壹圓

◎志林
○賄賂トシテ官吏ニ贈ルヘク委託シタル金錢ノ費消……法學博士　岡田朝太郎
○解散後ノ議會ハ如何ナル議會ナルヤ……法學士　清水澄
○片獨行爲ニ就テ……法學士　杉山直治郎
○約單例批評……法學博士　梅謙次郎
○最近判例……法學士　高野岩三郎
○統計學ノ話……法學士　佐竹三吾

◎纂論
○露國新手形法（五）……法科大學生

◎解疑
○母ノ財產管理ノ辭任及其意思表示ノ方法……法律學士　掛下重次郎
○被敎者ト共ニ犯罪ノ實行ヲ爲シタル敎唆者ノ處分……法學士　谷格治
○傭船契約ト僱ノ物品運送契約トノ規定ノ差異……法學士　加藤正治

◎散錄
○法界小言……與太郎

◎判例
○大審院新判決例二十七件

◎雜報
○非常特別稅ニ關スル注意○高橋博士ノ露艦國際法違反論○新法學博士○監査役ノ職權○第一陸軍士官ノ意見○關ニ關スル渡邊法律學士ノ意見○第一陸軍ノ大勝利○旅順口閉塞ノ成功○巡査ノ家宅搜索○不信任決議ノ成行○裸體問題ノ續出○橫山博士前妻ノ免訴○臺灣法院ノ廢合○露國ニ於ケル佛國ノ資金

◎記事
○清國留學生ノ爲メニ特設シタル法政速成科開講○清國留學生法政速成科設置趣意書○清國留學生ノ爲メニ特設シタル法政速成科規則○本校大學組織及實業科新設稅寡及校友大懇親會○圖書寄附金募集委員○圖書購入費募集ノ景況○五大學聯合懇實大討論會○實業懇話會○校友異動○校友死亡○寄贈書目

發行所　法政大學

明治三十七年五月卅一日印刷
明治三十七年六月　三　日發行
（定價金貳拾錢）

編輯兼發行者　東京市牛込區牛込北町十番地　萩原敬之

印刷者　東京市牛込區矢來町三番地　小宮山信好

印刷所　東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地　金子活版所

發行所　東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
司法省指定　法政大學
（電話番町百七十四番）

（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可
毎月十箇一日三日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行）